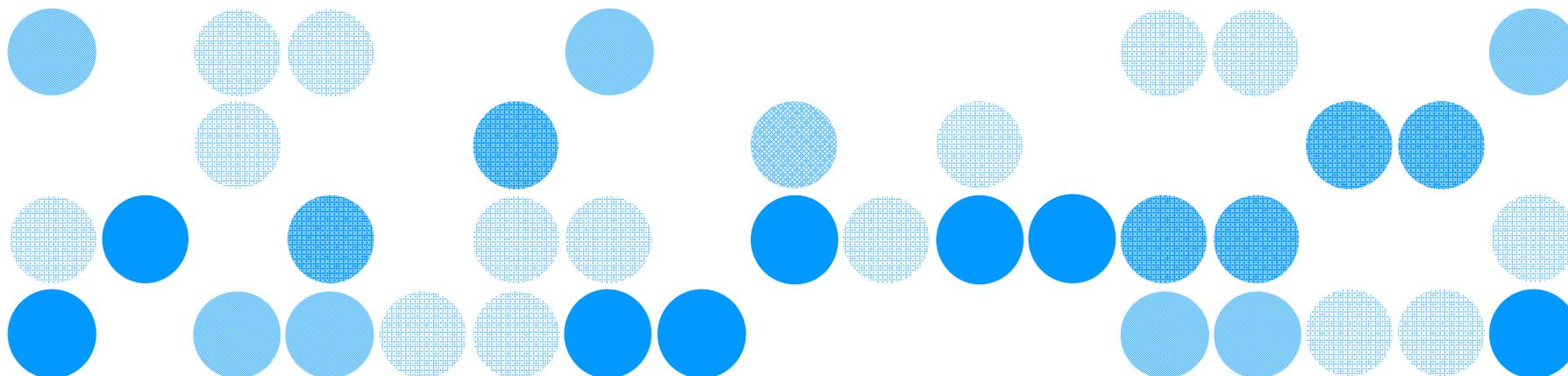

OMRON

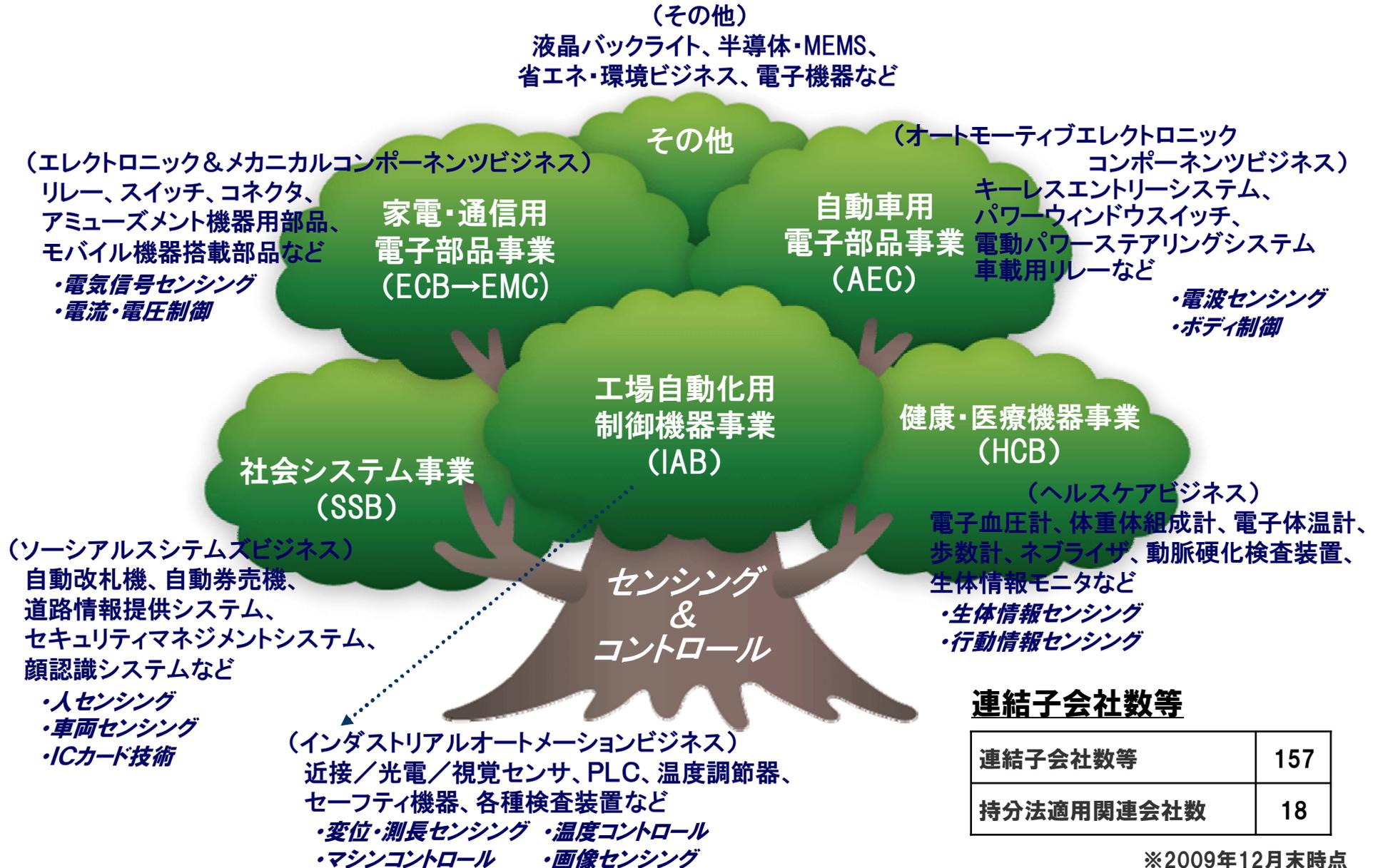
Sensing tomorrow™

平成22年(2010年)3月期
第3四半期決算
～投資家様向け説明会～



2010年1月29日

オムロン株式会社



連結子会社数等

連結子会社数等	157
持分法適用関連会社数	18

※2009年12月末時点

エグゼクティブ・サマリー	P.4
第3四半期決算報告	P.5
通期業績見通し	P.28
緊急対策及び構造改革の状況	P.37
中国の状況(マクロ環境とIAB)	P.42
ご参考資料	P.45

<注意事項>

1. 当社の連結決算は米国会計基準を採用しています。
2. 業績見通し等は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なることがあります。実際の業績等に影響と与える重要な要因には、(i)当社の事業領域を取り巻く日本および海外の経済情勢、(ii)当社製品・サービスに対する需要動向、(iii)新技術開発・新商品開発における当社グループの能力、(iv)資金調達環境の大幅な変動、(v)他社との提携・協力関係、(vi)為替・株式市場の動向などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。
3. 2010年3月期よりFASB基準書第280号「セグメント報告」を適用しております。当基準書の適用に伴い、前連結累計期間に係わるセグメント情報の数値(SSB売上・各セグメント営業利益)を組替えて表示しております。
4. 当第3四半期において、ECB(エレクトロニクスコンポーネツビジネス)をメカニカルコンポの強化に向けEMC(エレクトロニック&メカニカルコンポーネツビジネス)へ改編し、ECB傘下のバックライト事業とマイクロデバイス事業を社長直轄の新組織へ移管しております。これに伴い、従来「IAB」「ECB」「AEC」「SSB」「HCB」に区分していた事業セグメントは、当第3四半期より「IAB」「EMC」「AEC」「SSB」「HCB」「その他」の区分に変更しております。また、過年度の数値につきましても新組織区分に組替えて表示しております。

エグゼクティブ・サマリー

第3四半期累計 決算とポイント

- ▶ 第1四半期で底を脱し、第2四半期以降は回復傾向
- ▶ 第3四半期累計期間では、売上、利益ともに前年同期を下回るが、乖離幅は縮小
- ▶ 売上回復と緊急対策効果により第2四半期に続き、第3四半期の3ヶ月間においても営業黒字を達成し、累計期間でも黒字に転換（第3四半期、3ヶ月間実績 売上:1,381億円、営業利益:87億円）

(連結業績)	第3四半期 累計期間実績	前年同期 実績	前年同期比
売上高	3,705億円	4,988億円	△25.7%
営業利益	10億円	167億円	△93.9%
税前利益	2億円	147億円	△98.7%
四半期純利益 (当社株主に帰属する)	△7億円	91億円	—

2010年3月期 通期業績見通しとポイント

- ▶ 第4四半期も回復傾向が続くと予想し、売上・利益ともに前回見通し(2009年10月29日時点)を上方修正

(連結業績)	2010年3月期 修正予想	前期実績	前期比	前回見通し	前回見通し比
売上高	5,200億円	6,272億円	△17.1%	5,100億円	+2.0%
営業利益	100億円	53億円	+87.3%	0億円	—
税前利益	55億円	△391億円	—	△35億円	—
当期純利益 (当社株主に帰属する)	30億円	△292億円	—	△20億円	—

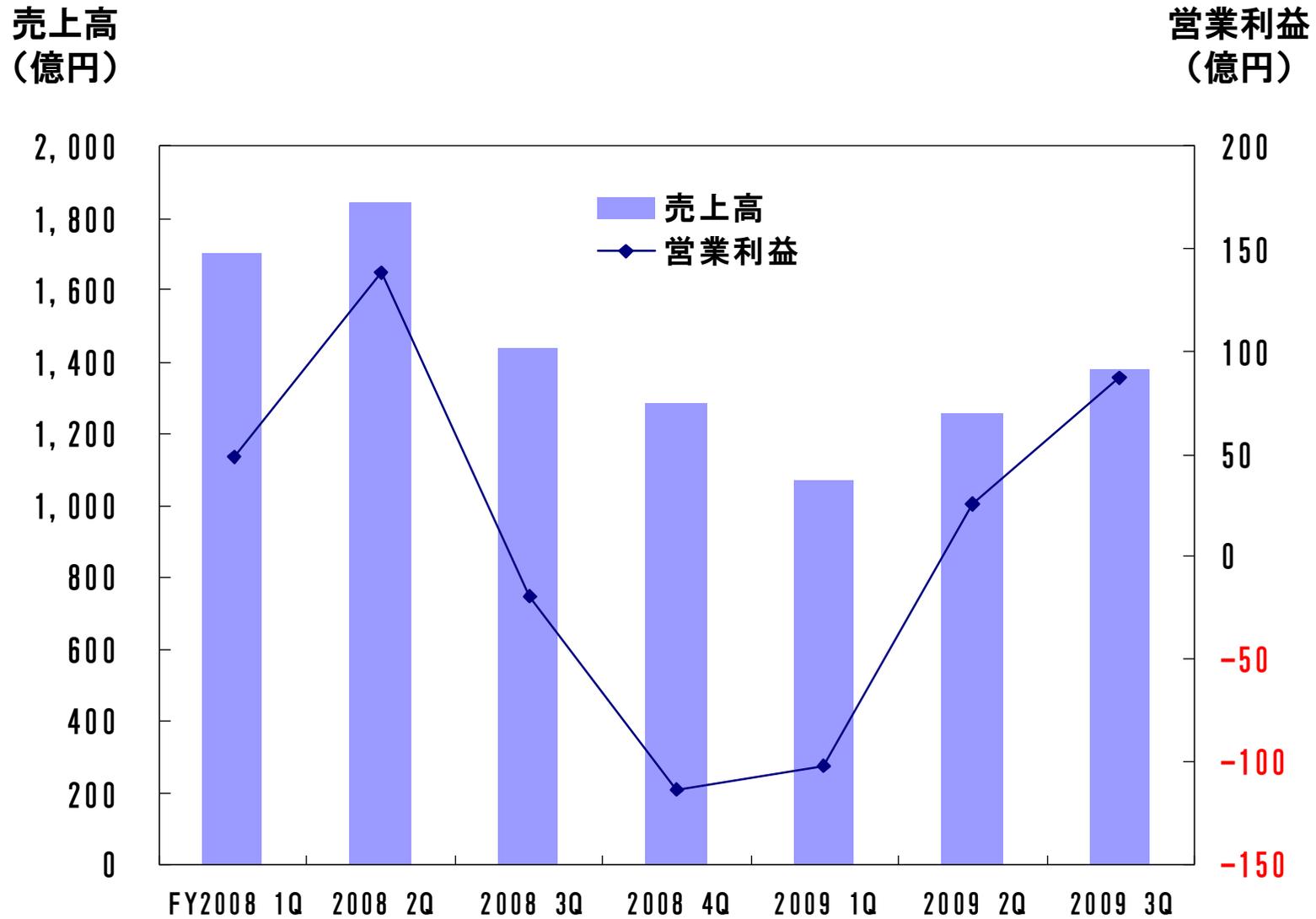
※第4四半期の為替レート前提 USD・・・90円、 EUR・・・130円（前回見通し同様）

エグゼクティブ・サマリー	P.4
第3四半期決算報告	P.5
通期業績見通し	P.28
緊急対策及び構造改革の状況	P.37
中国の状況(マクロ環境とIAB)	P.42
ご参考資料	P.45

- 世界的な景気後退は第2四半期で底を打ち、第3四半期では回復傾向
- 第3四半期の3ヶ月間は営業利益87億円となり、累計期間でも黒字に転換

(億円)

全社PL	2010/3期 3Q累計期間	2009/3期 3Q累計期間	前年同期比
売上高	3,705	4,988	△25.7%
売上総利益	1,262	1,795	△29.7%
販管費	983	1,262	△22.1%
R&D費	270	366	△26.4%
営業利益	10	167	△93.9%
営業外費用	8	19	△56.9%
税引前第3四半期純利益	2	147	△98.7%
第3四半期純利益	△7	91	—
			前年同期差
USDレート (円)	93.6	102.3	△8.7
EURレート (円)	132.2	150.9	△18.7



セグメント変更による組替状況(3Q累計実績、売上高)

▶ 2009年10月の組織変更により、セグメント情報を組替えて表示

	<組替前(参考値)>		(主な移管内容)	<組替後>		(億円)
2009年12月 売上実績	IAB	1,420	産機販売の移管 35	IAB	1,455	
	ECB(EMC)	834		OPT、MDの移管 274	EMC	525
	その他	123		その他	324	
	消去調整	—		消去調整	73	
2008年12月 売上実績	IAB	2,185	産機販売の移管 76	IAB	2,261	
	ECB(EMC)	1,013		OPT、MDの移管 321	EMC	617
	SSB	498	電子機器事業の移管 65	SSB	433	
	その他	110		その他	415	
	消去調整	—		消去調整	79	

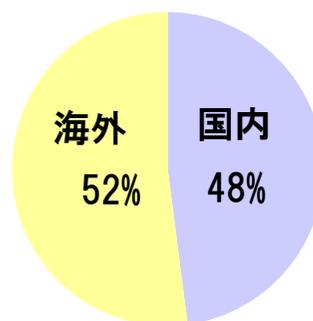
➤各国の政策的な消費拡大策や環境対策などを受け、国内外ともに徐々に回復傾向

(億円)

国内/海外	2010/3期 3Q累計期間	2009/3期 3Q累計期間	前年同期比
国内	1,768	2,403	△26.4%
海外	1,937	2,585	△25.1%
合計	3,705	4,988	△25.7%

*直接貿易は海外に含みます

売上高構成比(国内外)



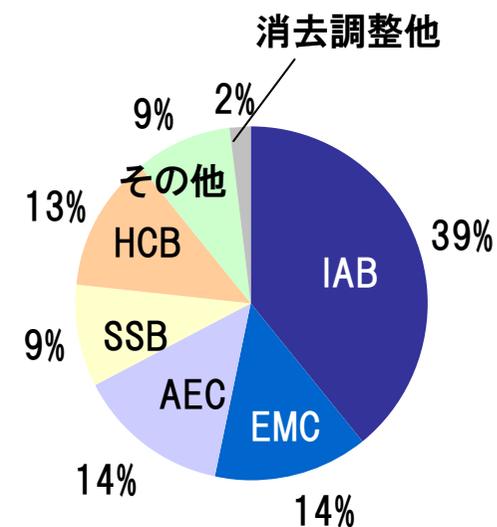
連結売上高明細(新セグメント別)

▶依然として全セグメントで前年実績を下回るものの、乖離幅は縮小

(億円)

セグメント別	2010/3期 3Q累計期間	2009/3期 3Q累計期間	前年同期比
工場自動化用制御機器事業 (IAB)	1,455	2,261	△35.7%
家電・通信用電子部品事業 (EMC)	525	617	△14.9%
自動車用電子部品事業 (AEC)	526	695	△24.2%
社会システム事業 (SSB)	330	433	△23.9%
健康・医療機器事業 (HCB)	472	488	△3.1%
その他	324	415	△22.0%
消去調整他	73	79	△8.1%
合計	3,705	4,988	△25.7%

売上高構成比(セグメント別)



連結営業利益(新セグメント別)

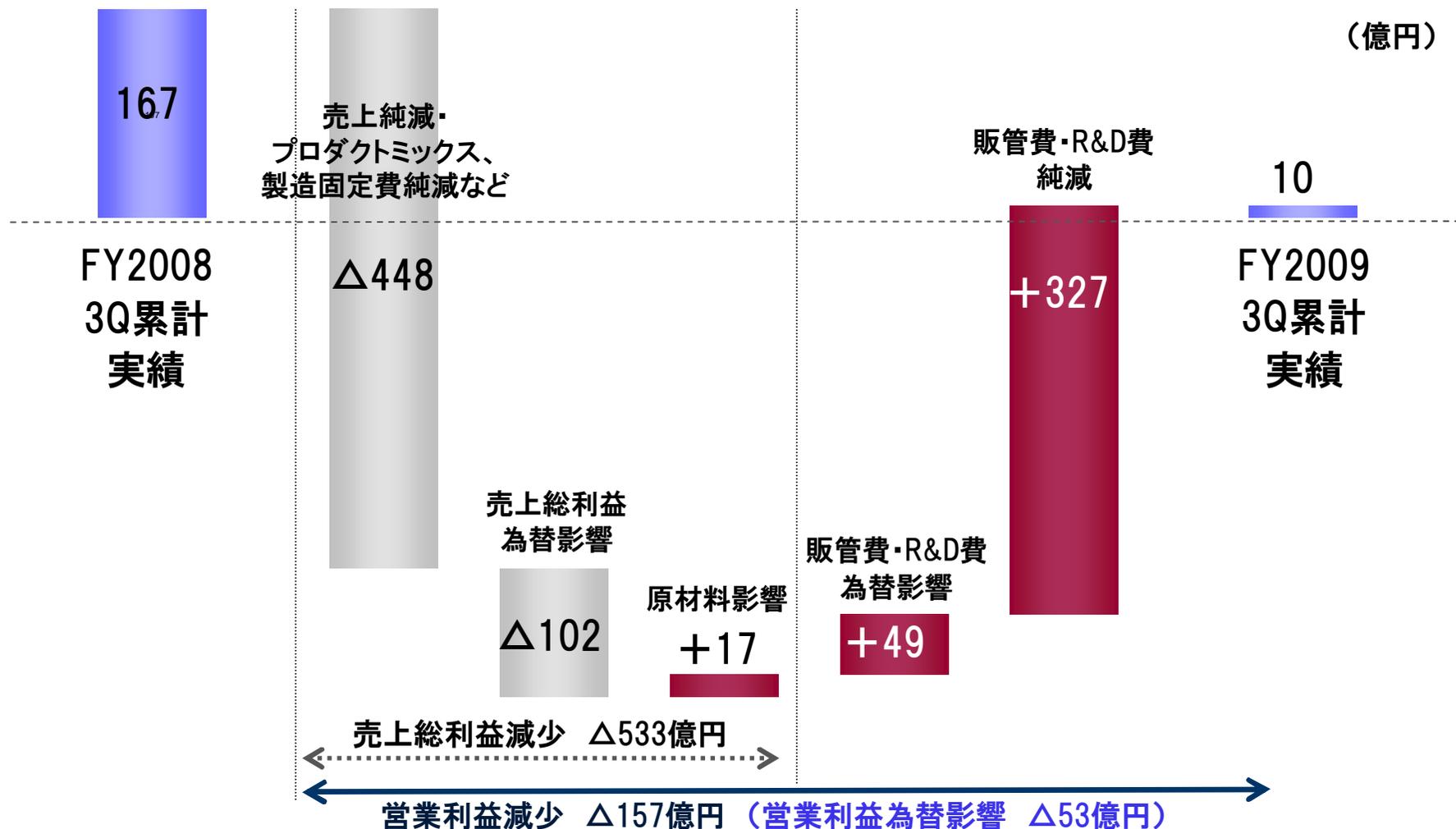
➤ AECとHCBは好調に推移し、前年同期比で大幅に改善

(億円)

セグメント別	2010/3期 3Q累計期間	2009/3期 3Q累計期間	前年同期比
工場自動化用制御機器事業 (IAB)	59	240	△75.5%
家電・通信用電子部品事業 (EMC)	40	59	△33.2%
自動車用電子部品事業 (AEC)	8	△33	-
社会システム事業 (SSB)	△27	△8	-
健康・医療機器事業 (HCB)	63	43	+45.5%
その他	△55	△43	-
消去調整他	△77	△91	-
合計	10	167	△93.9%

連結営業利益差異分析(前年同期比)

➤ 売上減と為替影響による減少を、緊急対策(固定費および変動費の削減)により補完



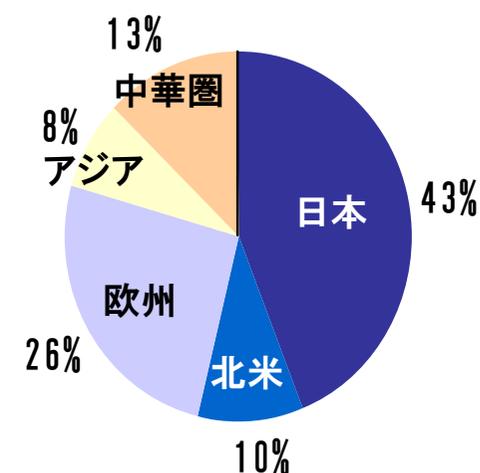
工場自動化用制御機器事業(IAB)

- ▶国内では、自動車・電子部品・半導体業界の生産回復により、センサ等を中心に改善傾向
- ▶海外では、特に中国で内需拡大に伴う生産稼働率の上昇や設備投資の増加により継続的な回復が見られる

(億円)

IAB売上高	2010/3期 3Q累計実績	2009/3期 3Q累計実績	前年 同期比
国内	640	1,037	△38.3%
海外	815	1,224	△33.5%
北米	141	248	△43.0%
欧州	376	597	△37.0%
アジア	113	142	△20.6%
中華圏	182	229	△20.3%
直接貿易	2	8	△76.5%
合計	1,455	2,261	△35.7%
営業利益	59	240	△75.5%
営業利益率	4.0%	10.6%	△6.6P

地域別売上構成比



セーフティコンポーネント

プログラマブルコントローラ

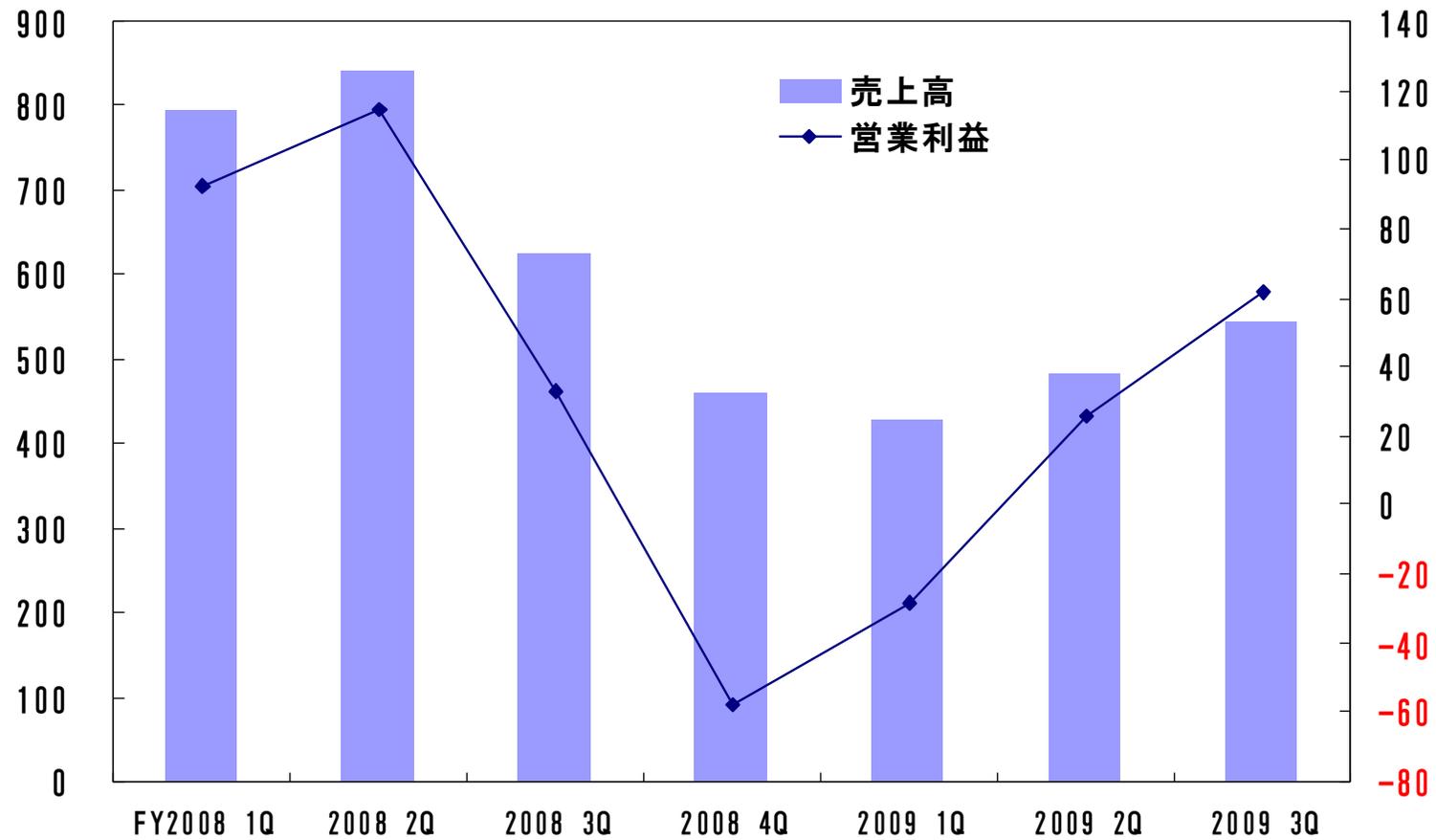


視覚センサ

工場自動化用制御機器事業(IAB) / 売上高・営業利益推移

売上高
(億円)

営業利益
(億円)



家電・通信用電子部品事業(EMC)

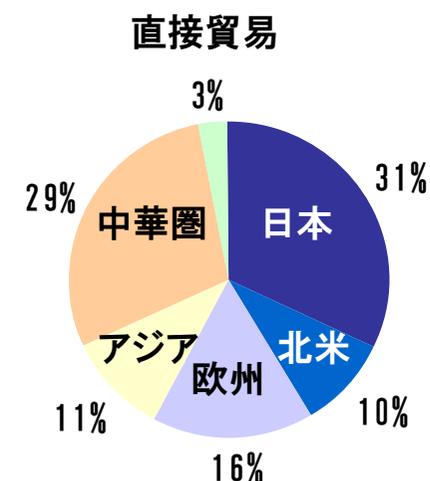
- ▶国内では、産業機器向け需要が回復傾向で、営業利益の改善に寄与
- ▶海外では、特に中国・東南アジアで民生用の家電用リレー・携帯電話用入力デバイス等の需要が回復

(億円)

EMC売上高 (新セグメント)	2010/3期 3Q累計実績	2009/3期 3Q累計実績	前年 同期比
国内	167	197	△15.2%
海外	358	420	△14.8%
北米	50	69	△27.6%
欧州	* 85	75	+13.5%
アジア	55	71	△22.1%
中華圏	152	174	△12.5%
直接貿易	16	31	△50.4%
合計	525	617	△14.9%
営業利益	40	59	△33.2%
営業利益率	7.5%	9.6%	△2.1P

*欧州のリレー事業の一部をAECより移管

地域別売上構成比



リレー

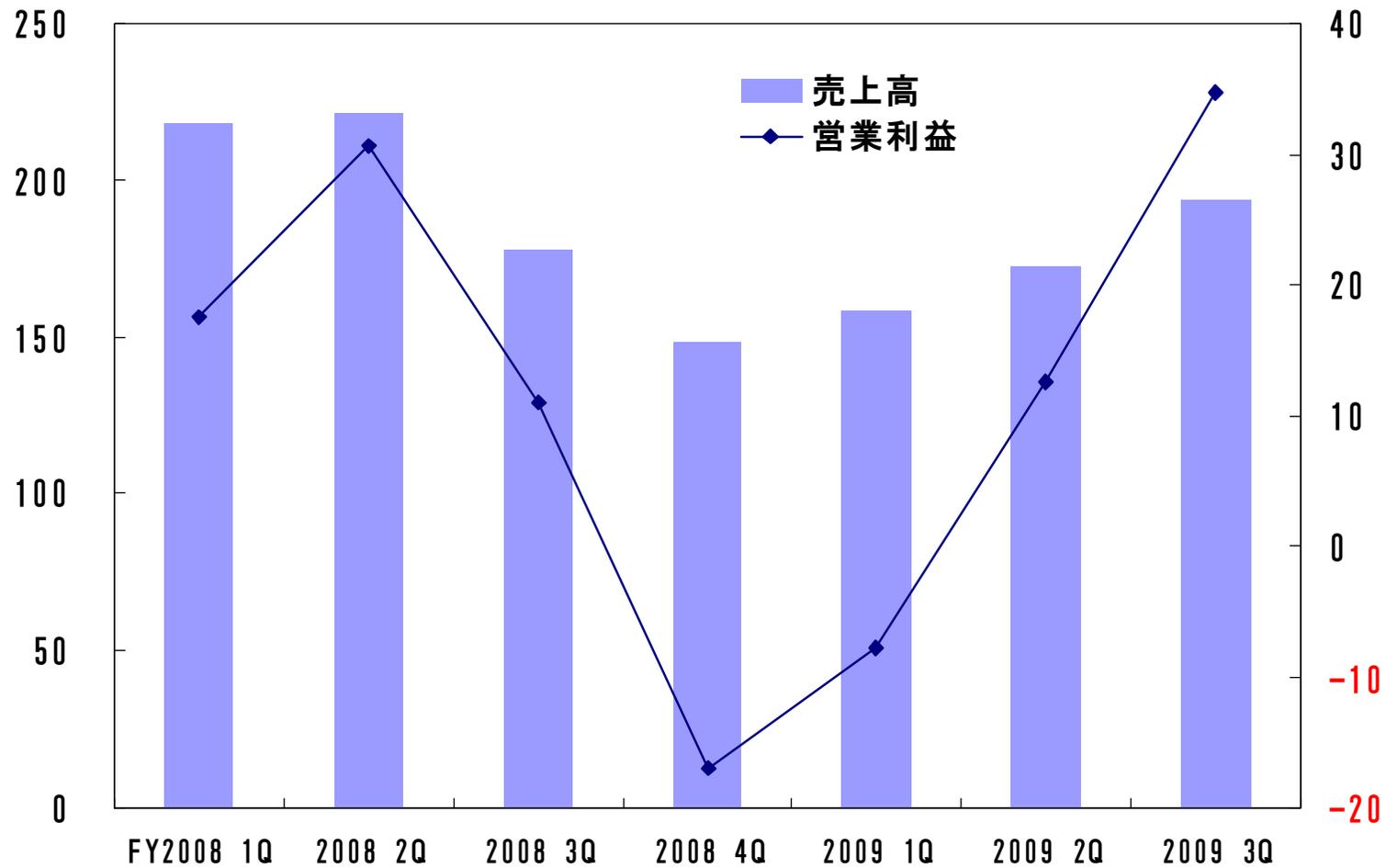
マイクロスイッチ

FPCコネクタ

家電・通信用電子部品事業(EMC) / 売上高・営業利益推移

売上高
(億円)

営業利益
(億円)



自動車用電子部品事業(AEC)

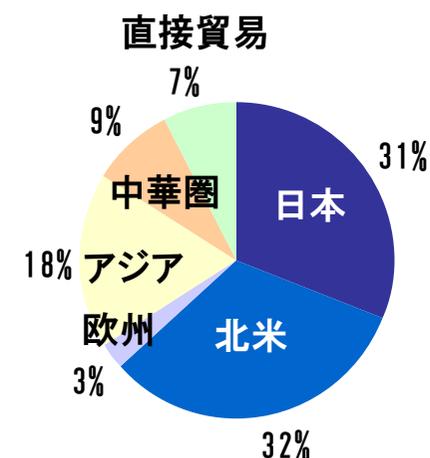
- ▶ 国内・海外ともに各国の自動車購買刺激政策の効果により、需要は回復傾向
- ▶ 第2四半期以降、黒字を継続

(億円)

AEC売上高	2010/3期 3Q累計実績	2009/3期 3Q累計実績	前年 同期比
国内	164	207	△20.7%
海外	362	488	△25.7%
北米	168	243	△30.7%
欧州	*14	77	△81.4%
アジア	95	106	△10.0%
中華圏	45	38	+20.6%
直接貿易	39	24	+62.0%
合計	526	695	△24.3%
営業利益	8	△33	-
営業利益率	1.4%	-	-

* 欧州のリレー事業の一部をEMCIに移管

地域別売上構成比

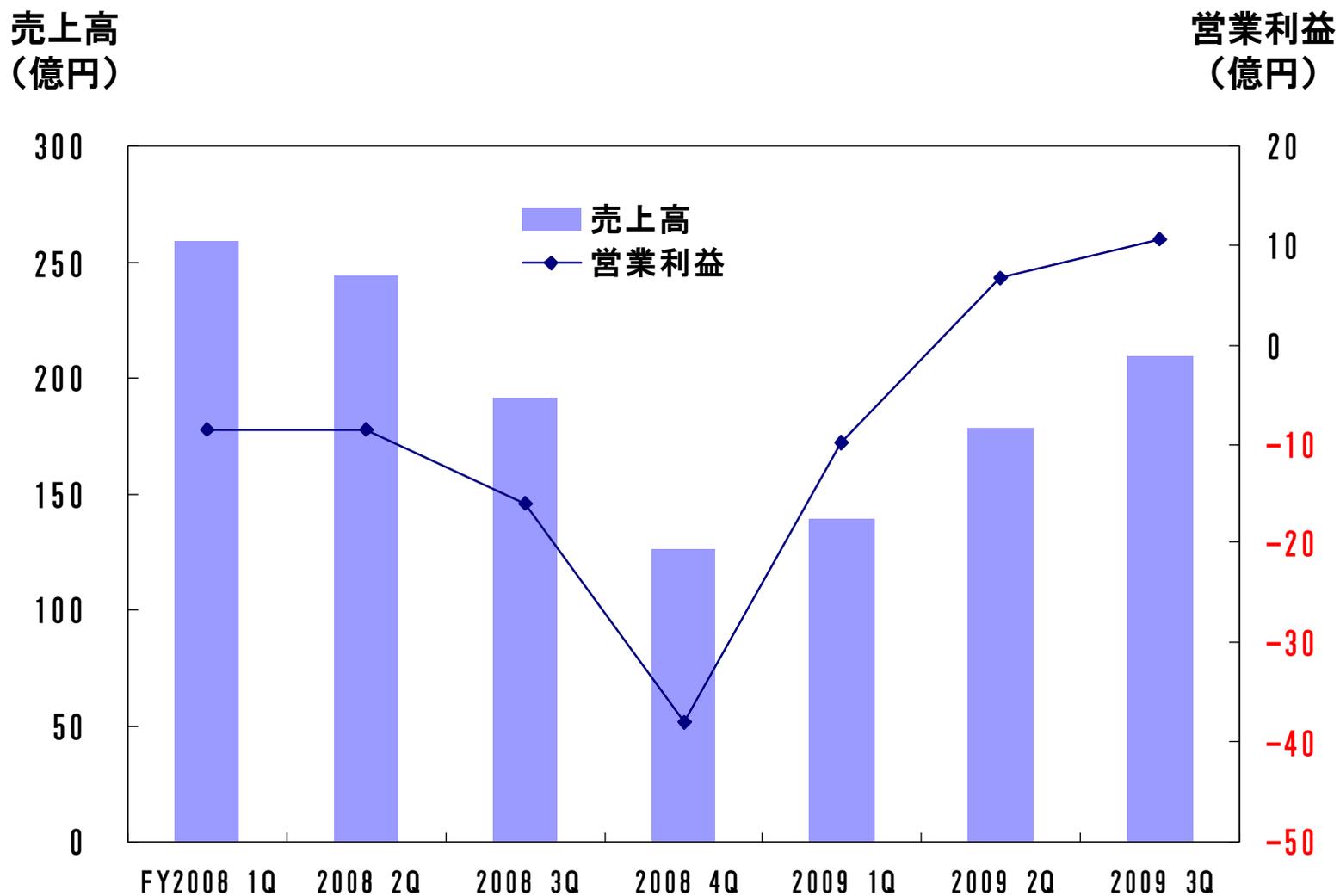


パッシブエントリーシステム

電動パワーステアリング
コントローラ



自動車用電子部品事業(AEC) / 売上高・営業利益推移



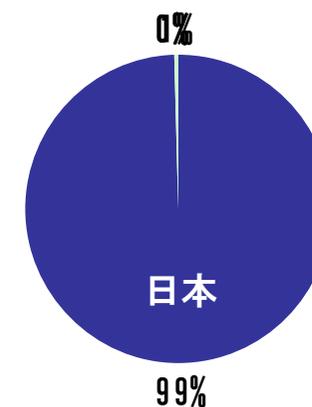
社会システム事業(SSB)

- 駅務システム事業では、鉄道事業者の設備投資抑制により苦戦
- 需要低迷の中で固定費圧縮を進め、利益水準を維持

(億円)

SSB売上高	2010/3期 3Q累計実績	2009/3期 3Q累計実績	前年 同期比
国内	328	423	△22.5%
海外	2	10	△76.3%
北米	0	0	-
欧州	0	0	-
アジア	0	0	-
中華圏	0	0	-
直接貿易	2	9	△76.1%
合計	330	433	△23.9%
営業利益	△27	△8	-
営業利益率	-	-	-

地域別売上構成比



自動改札機



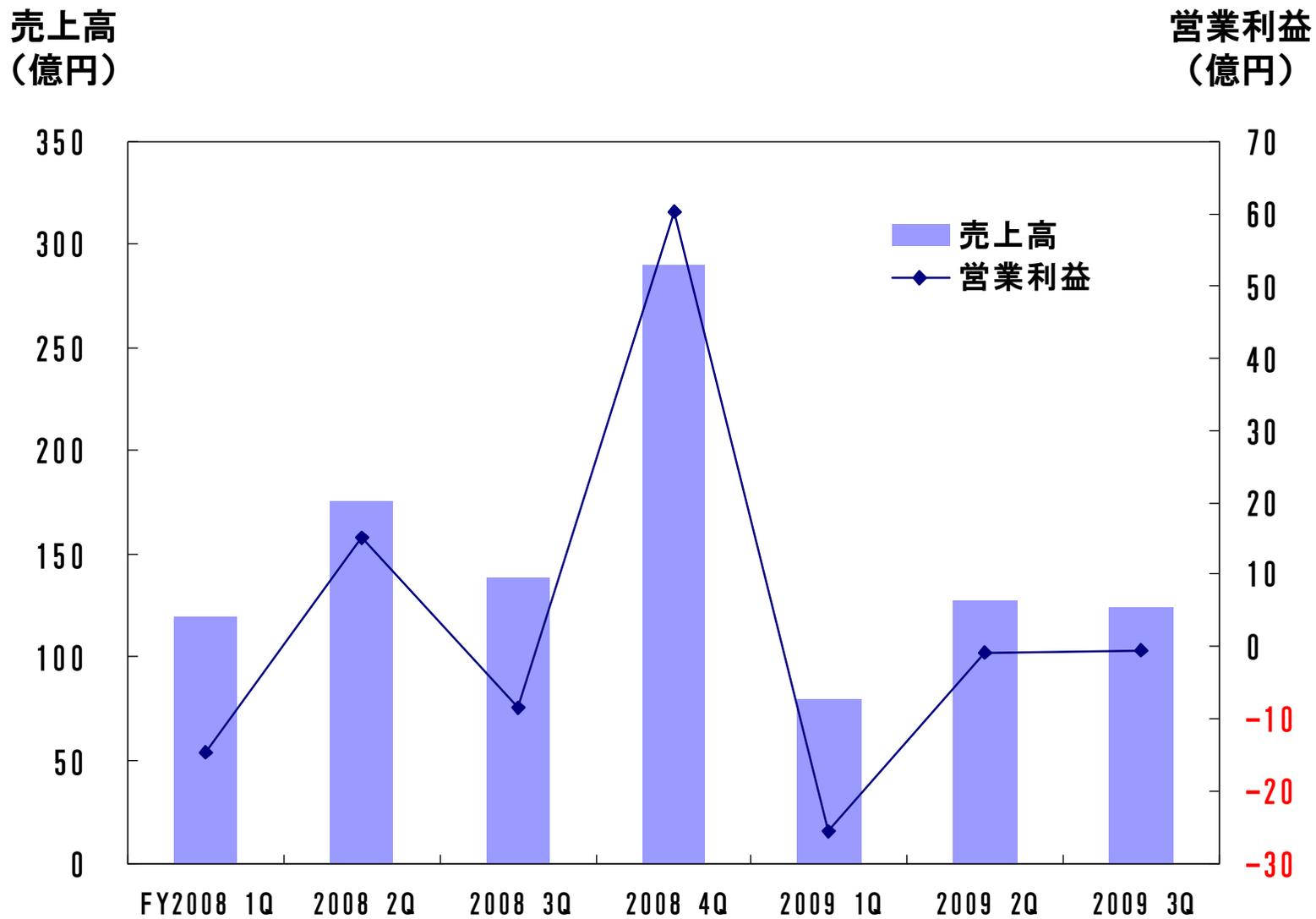
交通管制システム



セキュリティシステム



社会システム事業(SSB) / 売上高・営業利益推移

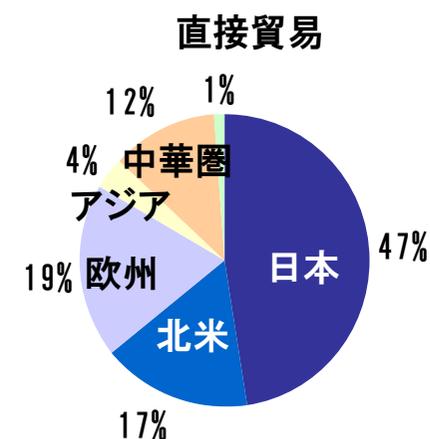


- ▶国内では、血圧計や電子体温計を中心に健康機器への需要が堅調に推移
- ▶海外では、特に中国において健康管理意識の高まりが継続し、前年売上を10%以上上回る

(億円)

HCB売上高	2010/3期 3Q累計実績	2009/3期 3Q累計実績	前年 同期比
国内	224	212	+5.8%
海外	248	276	△9.9%
北米	79	90	△13.1%
欧州	91	114	△20.7%
アジア	17	17	+3.0%
中華圏	57	52	+10.2%
直接貿易	5	3	+94.8%
合計	472	488	△3.1%
営業利益	63	43	45.5%
営業利益率	13.3%	8.9%	+4.4P

地域別売上構成比



デジタル自動血圧計



体重体組成計

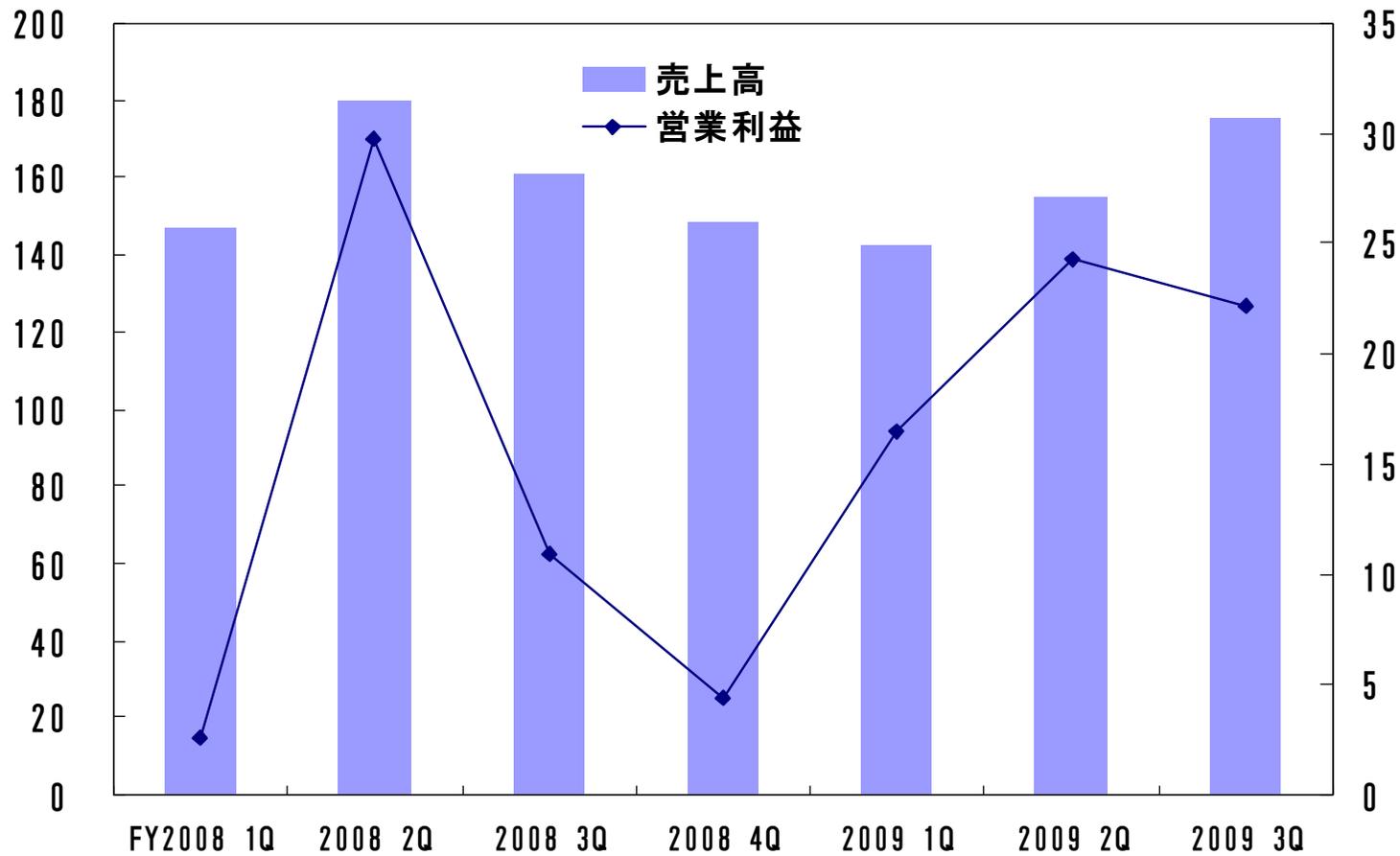


血圧脈波検査装置

健康・医療機器事業(HCB) / 売上高・営業利益推移

売上高
(億円)

営業利益
(億円)



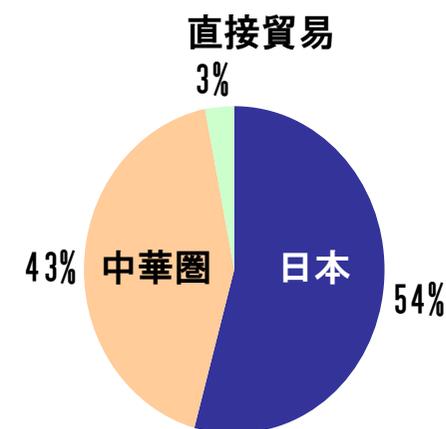
その他(新セグメント)

- ▶ バックライト事業は、中華圏で比較的好調に推移
- ▶ マイクロデバイス事業は、液晶関連向けファンドリ案件の増加等により回復傾向

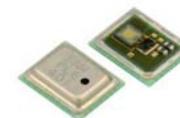
(億円)

その他売上高 新セグメント	2010/3期 3Q累計実績	2009/3期 3Q累計実績	前年 同期比
国内	176	250	△29.6%
海外	148	165	△10.6%
北米	0	0	-
欧州	0	0	-
アジア	0	0	-
中華圏	138	142	△3.2%
直接貿易	10	23	△57.1%
合計	324	415	△22.0%
営業利益	△55	△43	-
営業利益率	-	-	-

地域別売上構成比



小型液晶用バックライト MEMSマイクロフォン



e-watching

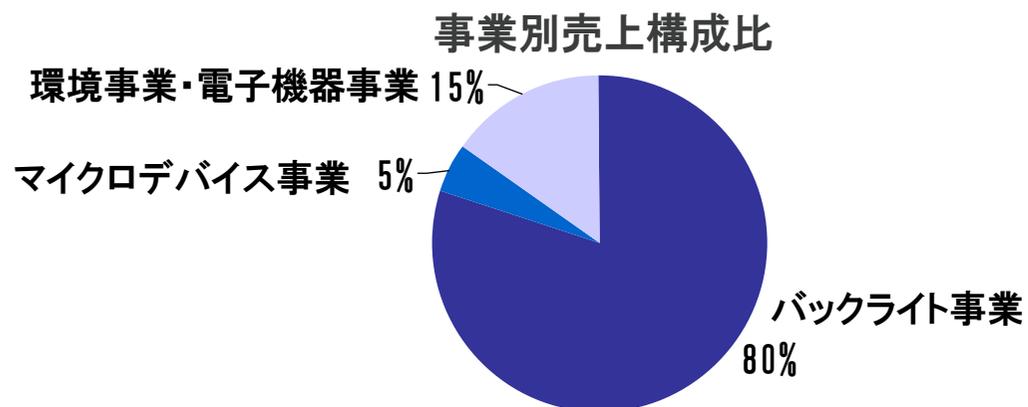


PCボード

その他(新セグメント) 事業別売上高

➤ 新規事業として、探索・育成を継続する事業をその他セグメントにて表記

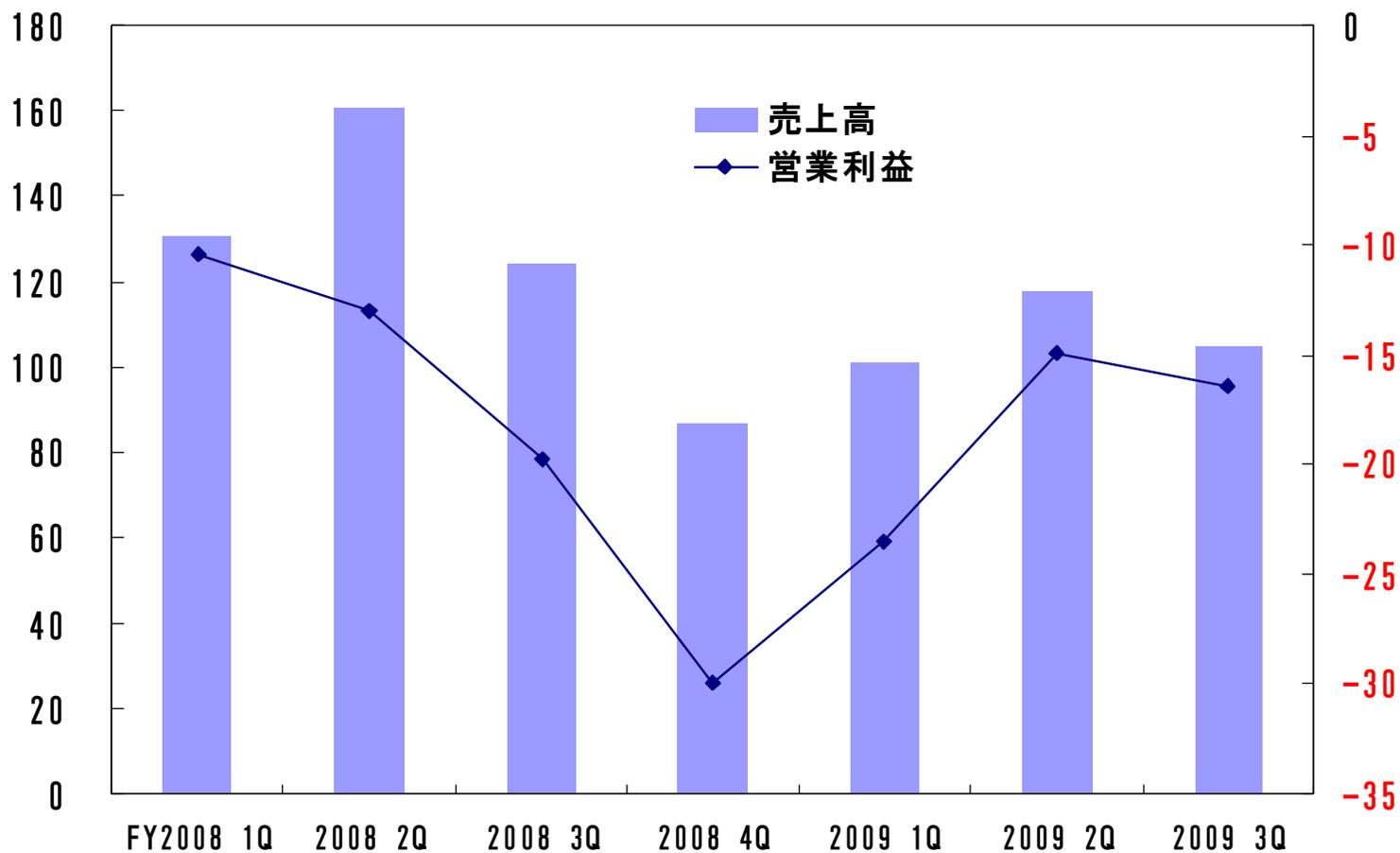
その他売上高 (新セグメント)		2010/3期 3Q累計実績	2009/3期 3Q累計実績	(億円) 前年 同期比
旧ECBより移管	バックライト事業(OPT)	258	295	△12.6%
	マイクロデバイス事業(MD)	16	25	△35.2%
	小計	274	320	△14.2%
旧消去調整より移管	環境事業・電子機器事業	49	95	△47.9%
合計		324	415	△22.0%



その他 / 売上高・営業利益推移

売上高
(億円)

営業利益
(億円)



連結貸借対照表

- 新規設備投資抑制や在庫削減により現預金が増加
- 自己資本比率は前期末の55.4%から55.9%に増加

連結B/S	2009年12月	2009年3月	(億円) 2008年12月(参考)
資産の部	5,355	5,383	5,838
現預金	524	466	400
売上債権	1,116	1,110	1,219
在庫	823	847	1,026
繰延税金、その他流動資産	275	337	382
固定資産	1,262	1,325	1,501
投資その他資産	1,355	1,298	1,310
負債の部	2,348	2,383	2,517
短期借入金	308	335	464
長期借入金	214	214	13
支払い手形及び買掛金等	637	582	749
退職給付引当金	760	804	763
その他負債	429	448	536
純資産の部	3,007	3,000	3,321
資本金・その他剰余金等	4,014	4,036	4,434
その他包括利益(損失)累計額	△579	△607	△686
自己株式	△445	△445	△444
非支配持分	17	16	19
負債、少数株主持分及び資本合計	5,355	5,383	5,838

▶ 設備投資と在庫削減によりフリーキャッシュフローは大幅に増加

(億円)

連結CF	2009年12月	2008年12月	2009年3月(参考)
営業活動によるキャッシュフロー	263	235	314
投資活動によるキャッシュフロー	△155	△317	△406
FCF	108	△82	△92
財務活動によるキャッシュフロー	△57	141	219
換算レート変動の影響	6	△66	△66
現金及び現金同等物の増減額	58	△7	60
四半期末の現金残高	524	400	466
減価償却費	201	252	335
設備投資	163	285	368

※2009年12月、2008年12月の設備投資は、連結キャッシュフロー計算書の資本的支出を適用

エグゼクティブ・サマリー	P.4
第3四半期決算報告	P.5
通期業績見通し	P.28
緊急対策及び構造改革の状況	P.37
中国の状況(マクロ環境とIAB)	P.42
ご参考資料	P.45

外部環境

- 第4四半期は、第2四半期からのゆるやかな回復傾向の継続を見込む
- 国内経済も明るさを取り戻し、海外も中華圏をはじめとする新興国での景気回復を見込む
- 設備投資需要も第2四半期での底打ち感をふまえ、回復傾向を見込む

- 為替は、前回見通しと同水準を前提 (参考資料 P.46)
- 原材料(銀・銅)価格は、前回見通しに比べ高騰を前提 (参考資料 P.47)

見通し前提

- 為替 : USD…90円、EUR…130円
(前回見通し USD…90円、EUR…130円)
- 原材料 : 銀…54,000円/kg、銅…650円/kg
(前回見通し 銀…51,000円/kg、銅…600円/kg)
- 緊急対策・構造改革は期初の計画を達成見込み

※前回見通しは10月29日公表の予想

■ 為替レート1円変動による影響額

為替	売上	営業利益
USD	約14億円	約4億円
ユーロ	約6億円	約3億円

■ 銅価格100円/kgの変動による影響額

原材料	営業利益
銅	約7.5億円

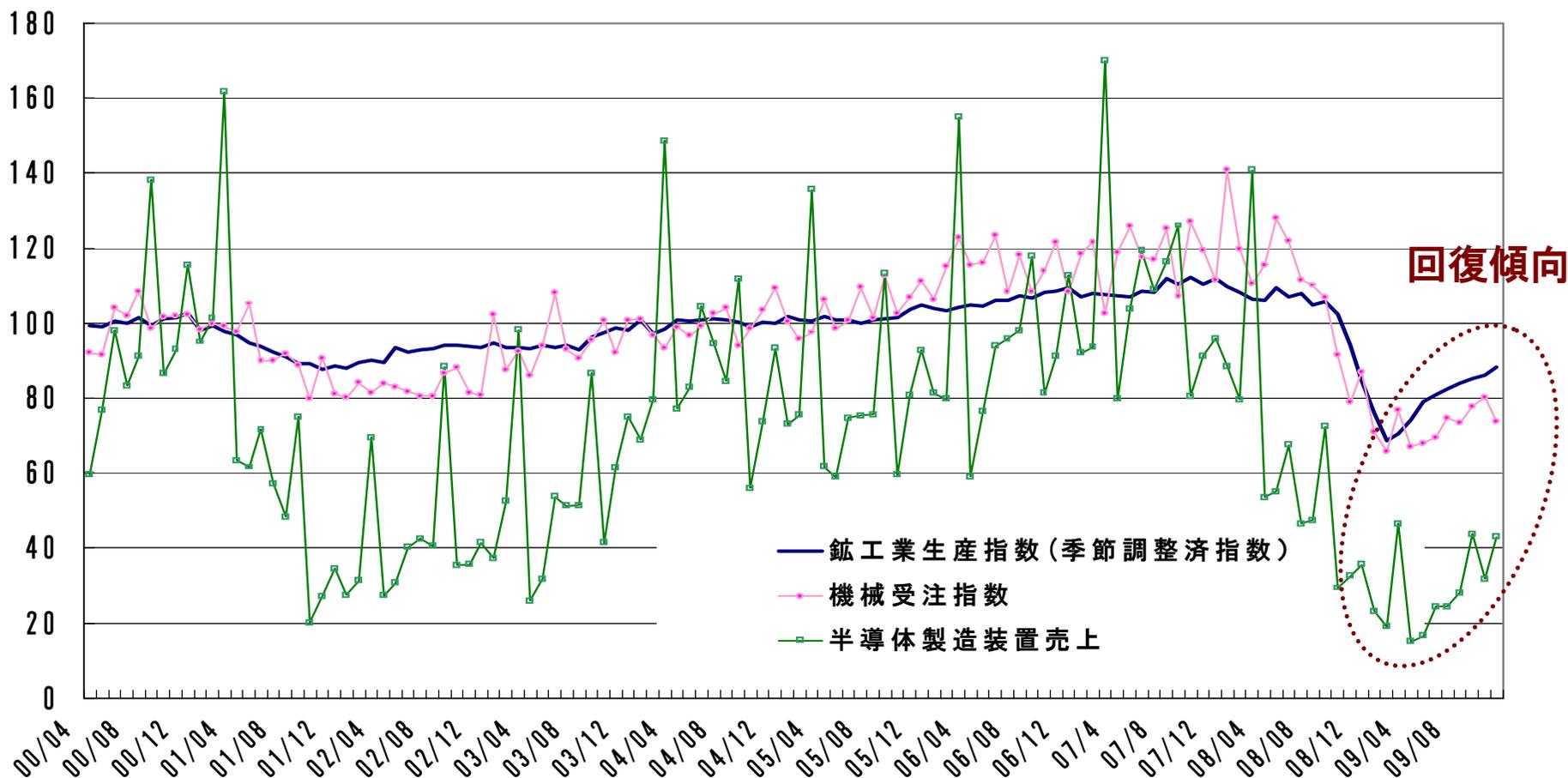
■ 銀価格1,000円/kgの変動による影響額

原材料	営業利益
銀	約0.5億円

※上記はいずれも通期に対する影響額

- 鋳工業生産指数・機械受注数および半導体製造装置売上は、第2四半期以降改善傾向
- 第4四半期も回復傾向は継続すると想定

＜鋳工業生産指数、機械受注指数、半導体製造装置売上＞



* 出典： 経済産業省、内閣府、SEAJ

第4四半期の前提 / 各セグメント

工場自動化用 制御機器事業 (IAB)

➤ 電子部品・自動車・半導体・輸送機等、ほとんどの業界が回復傾向

家電・通信用 電子部品事業 (EMC)

➤ 家電好調維持。韓国・台湾を中心とする半導体設備投資が回復基調

自動車用電子 部品事業 (AEC)

➤ 中国・韓国の販売・生産台数が増加継続。国内も乗用車生産台数は堅調。

社会システム 事業 (SSB)

➤ 引き続き、鉄道業界は設備投資抑制の見込み

健康・医療機器 事業 (HCB)

➤ 北米・欧州は苦戦継続だが、中国の血圧計需要増、国内はTVCM効果による売上増を見込む

その他

➤ 環境対応需要(特にCO2削減)のニーズ増加

2010年3月期通期業績見通し

▶ 通期業績見通しを売上、利益ともに上方修正

全社PL	2010/3期 通期見通し	2009/3期 実績	2010/3期 前回見通し	前年同期比	(億円)
					前回 見通し比
売上高	5,200	6,272	5,100	△17.1%	+2.0%
売上総利益	1,815	2,185	1,750	△16.9%	+3.7%
販管費	1,325	1,643	1,350	△19.3%	△1.9%
R&D費	390	489	400	△20.2%	△2.5%
営業利益	100	53	0	+87.3%	—
営業外費用	45	445	35	△89.9%	+28.6%
税引前純利益	55	△391	△35	—	—
当期純利益	30	△292	△20	—	—
				前年同期差	前回見通し差
EPS (円)	13.6	△132.2	△9.1	+145.8	+22.7
USDレート (円)	92.7	100.7	92.8	△8.0	△0.1
EURレート (円)	131.7	144.5	131.1	△12.8	+0.6

連結売上高見通し(国内外別)

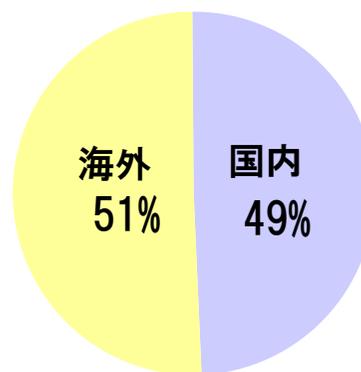
➤ 国内外ともに、前回見通しを上方修正し、特に海外での回復を見込む

(億円)

国内/海外	2010/3期 見通し	2009/3期 実績	2010/3期 前回見通し	前年同期比	前回 見通し比
国内	2,558	3,156	2,530	△18.9%	+1.1%
海外	2,642	3,116	2,570	△15.2%	+2.8%
合計	5,200	6,272	5,100	△17.1%	+2.0%

*直接貿易は海外に含みます

売上高見通し構成比(国内外)



連結売上高見通し(新セグメント別)

➤ IAB、AEC、HCBの好調を背景に、通期の売上見通しを上方修正

セグメント別	(億円)		
	2010/3期 見通し	2009/3期 実績	前年同期比
工場自動化用制御機器事業 (IAB)	2,040	2,720	△25.0%
家電・通信用電子部品事業 (EMC)	711	765	△7.1%
自動車用電子部品事業 (AEC)	735	821	△10.5%
社会システム事業 (SSB)	567	723	△21.6%
健康・医療機器事業 (HCB)	640	636	+0.6%
その他	425	502	△15.4%
消去調整他	82	105	△21.6%
合計	5,200	6,272	△17.1%

連結営業利益見通し(新セグメント別)

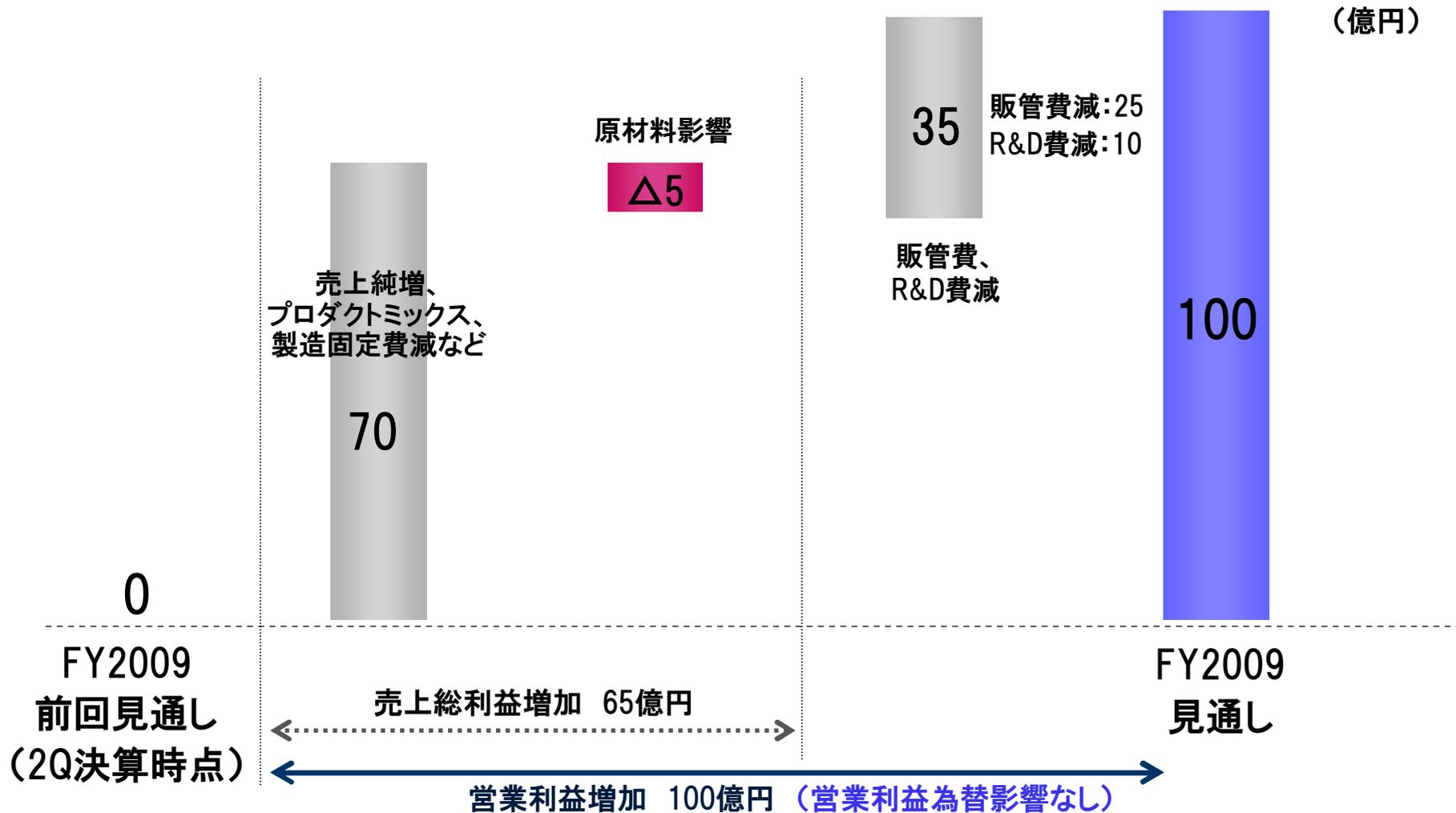
➤ 主にIABの利益増により、通期の営業利益見通しを上方修正

(億円)

セグメント別	2010/3期 見通し	2009/3期 実績	前年同期比
工場自動化用制御機器事業 (IAB)	120	182	△34.0%
家電・通信用電子部品事業 (EMC)	70	42	+65.8%
自動車用電子部品事業 (AEC)	14	△71	-
社会システム事業 (SSB)	25	52	△51.9%
健康・医療機器事業 (HCB)	71	48	+48.9%
その他	△68	△73	-
消去調整他	△132	△127	-
合計	100	53	+87.3%

連結営業利益差異分析(前回見通し比)

売上純増、プロダクトミックス、販管費・R&D費の抑制などにより、前回見通しを大幅に上回る



エグゼクティブ・サマリー	P.4
第3四半期決算報告	P.5
通期業績見通し	P.28
緊急対策及び構造改革の状況	P.37
中国の状況(マクロ環境とIAB)	P.42
ご参考資料	P.45

- ▶ 第3四半期累計では計画以上の進捗
- ▶ 通期で600億円以上のPL改善と、約250億円のキャッシュフロー創出を見込む

利益の創出(緊急対策)などによる2009年度のPL改善

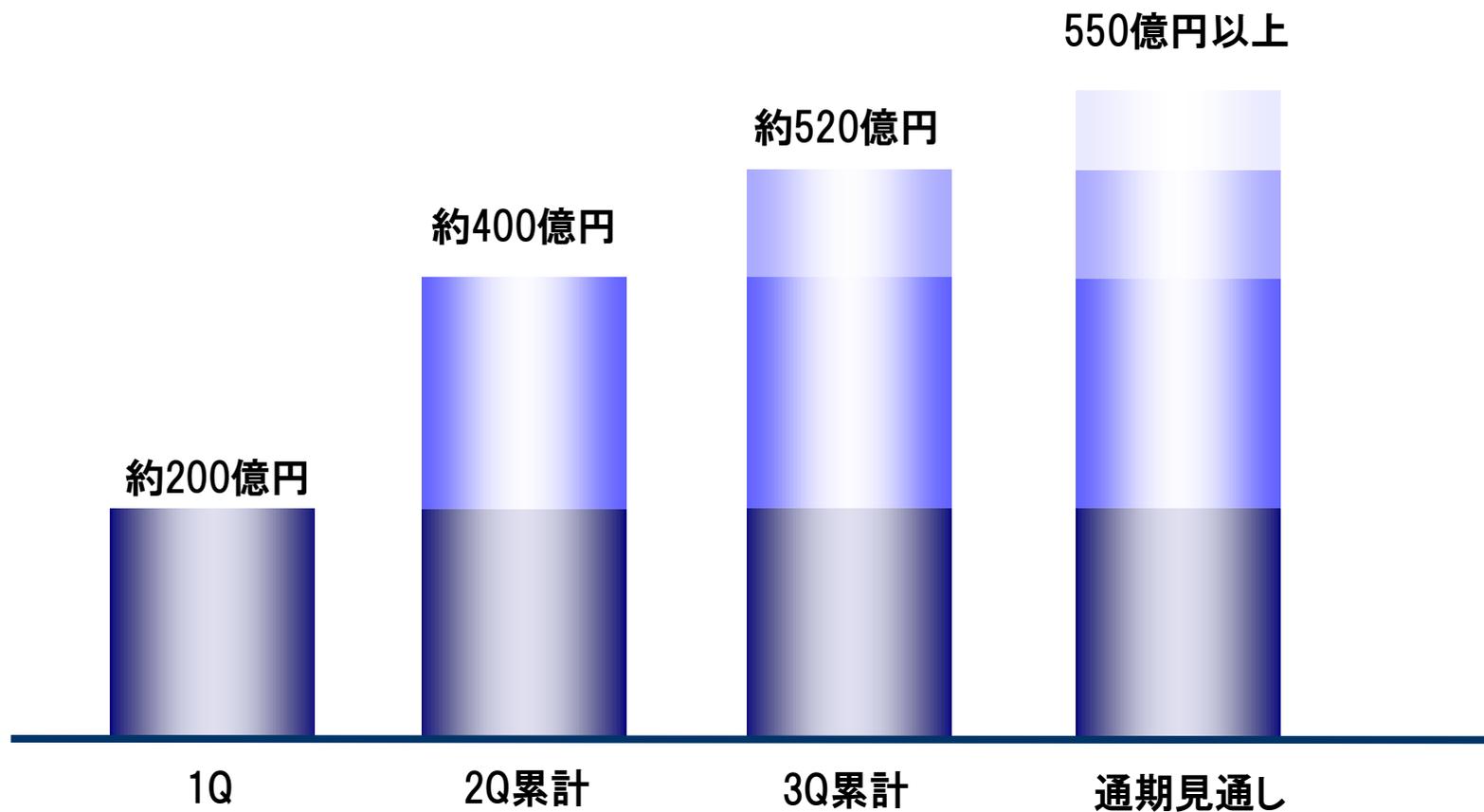
		年間削減目標額 (2009/3期比)	3Q累計削減額 (2009/3期比)	3Q累計 目標達成率 (2009/3期比)
変動費(削減額)		約50億円	—	—
固定費	製造固定費	約550億円	約520億円	+約10%
	販管費			+約10%
	R&D費			+約35%
合計		約600億円	—	—

キャッシュフローの創出(2009年度のキャッシュフロー改善項目)

削減項目		削減額目標 (年間)	第3四半期末の進捗
在庫削減	在庫削減	約150億円	3月末比約24億円削減
投資抑制	新規設備投資抑制	約100億円	年間計画どおり
			3Q累計設備投資削減額 123億円
		約250億円	

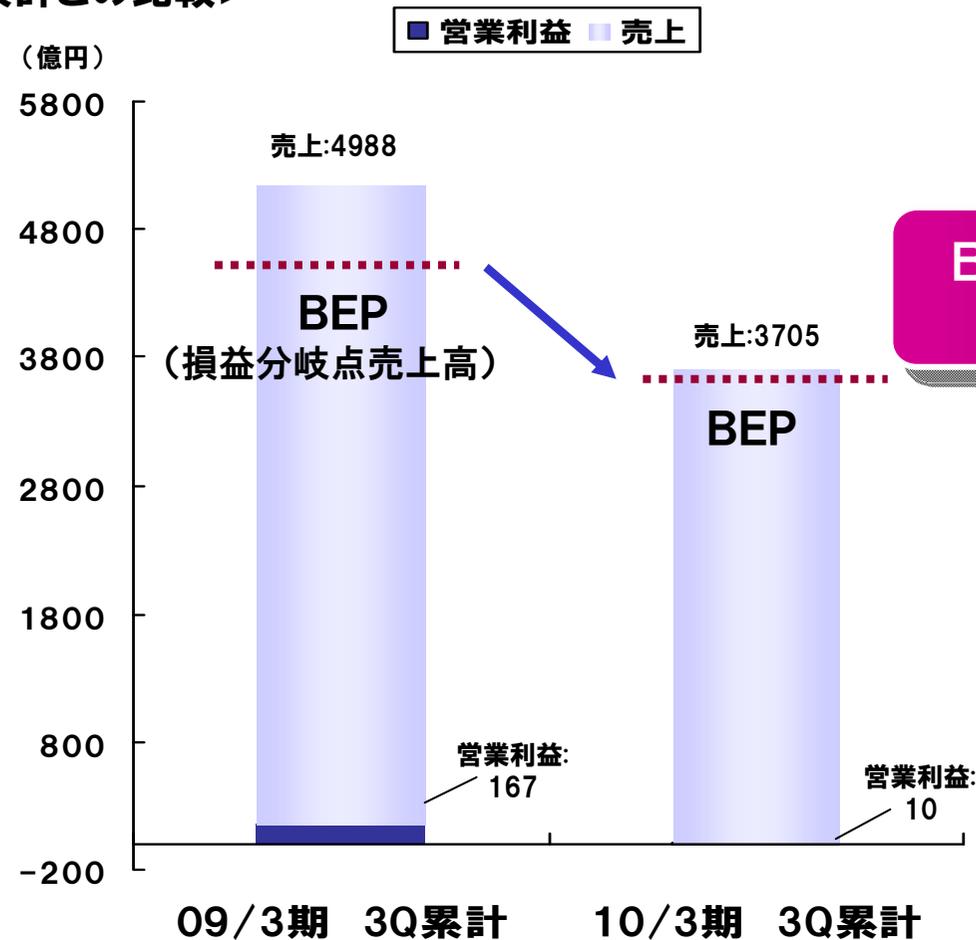
➤ 固定費削減は期初の計画を上回って推移

< 固定費削減額推移 >



➤ 固定費削減などにより、BEP(損益分岐点売上高)を大幅改善

<2009/3期 3Q累計との比較>



BEP前年同期比
約20%改善

構造改革の進捗状況

➤ 2011年3月末に向け、構造改革を着実に実行中

2009年2月

2010年1月末

2011年3月

構造改革(リバイバルステージ)

2009年
3月10日

2009年
7月30日

2009年
11月26日

2010年
1月28日

2010年
4~5月

制御3事業の 構造改革

・車載電装部品
事業の分社化
決定

・スイッチ事業
会社の設立決定
・リレー事業の
経営統合を実施
決定

・スイッチ事業
会社の詳細発表
・車載電装部品
事業会社の詳細発表
(詳細はP.43~45参照)

・スイッチ事業会社設立実施
・リレー事業の経営統合実施
・車載電装部品事業会社
分社化実施

生産拠点の 統廃合

・大型バックライト事業収束(3拠点)
・水口工場閉鎖
・OMRON AUTOMOTIVE ELECTRONICS UK閉鎖
・OMRON MANUFACTURING OF AMERICA, INC.閉鎖

・OMRON DUALTEC AUTOMOTIVE ELECTRONICS, INC.生産収束
(カナダ拠点の生産収束、シカゴ拠点との統合)

エグゼクティブ・サマリー	P.4
第3四半期決算報告	P.5
通期業績見通し	P.28
緊急対策及び構造改革の状況	P.37
中国の状況(マクロ環境とIAB)	P.42
ご参考資料	P.45

中国の状況 / 工場自動化用制御機器事業(IAB)の状況

- 【マクロ経済環境】中国政府景気対策4兆元投資や消費刺激策(自動車・家電)による内需拡大で輸出減をカバー
- 【当社IABの状況】社会インフラおよび国内需要向けのローカル企業を中心に売上高増加し、下期に入り売上回復が進む

販売拠点マップ



日系・台湾系企業に加え、ローカル企業への営業を強化。コールセンター・サービスセンターのサポートも充実。

中国全土をカバーする販売体制の構築
(計35拠点)

IAB中華圏の
2009年度下半期成長率見通し
(対上半期、USD比較)
+33%

マクロ環境

製造業の設備投資は高成長
(前年同期比25%以上成長を継続)

2009年の新車販売台数は
前年同期比46%増で
米国を抜き世界1位に

消費刺激策の対象地域の拡大
(白物家電や自動車の好調継続)

*出典: 大和総研 Strategy and Economic Report

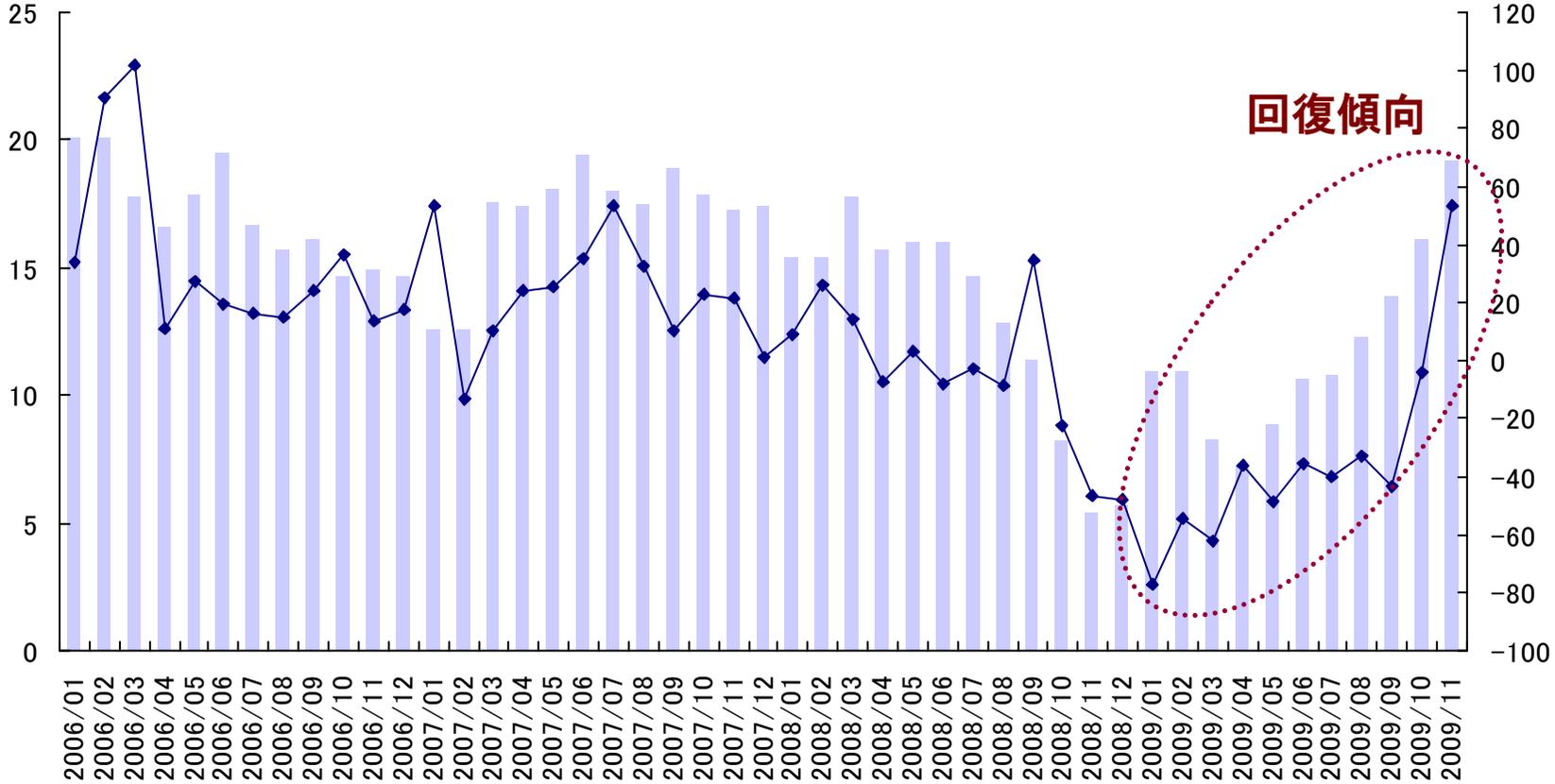
中国の状況 / 鋳工業生産指数とIAB売上高

- 【鋳工業生産指数】2009年4月以降、上昇を継続
- 【IAB】2009年1月を底に回復傾向、特に2009年12月は大きな伸びを示す。

中国鋳工業生産指数
(前年同月比、%)

中国鋳工業生産指数 IAB中華圏売上高

IAB中華圏売上高
(前年同月比、%)

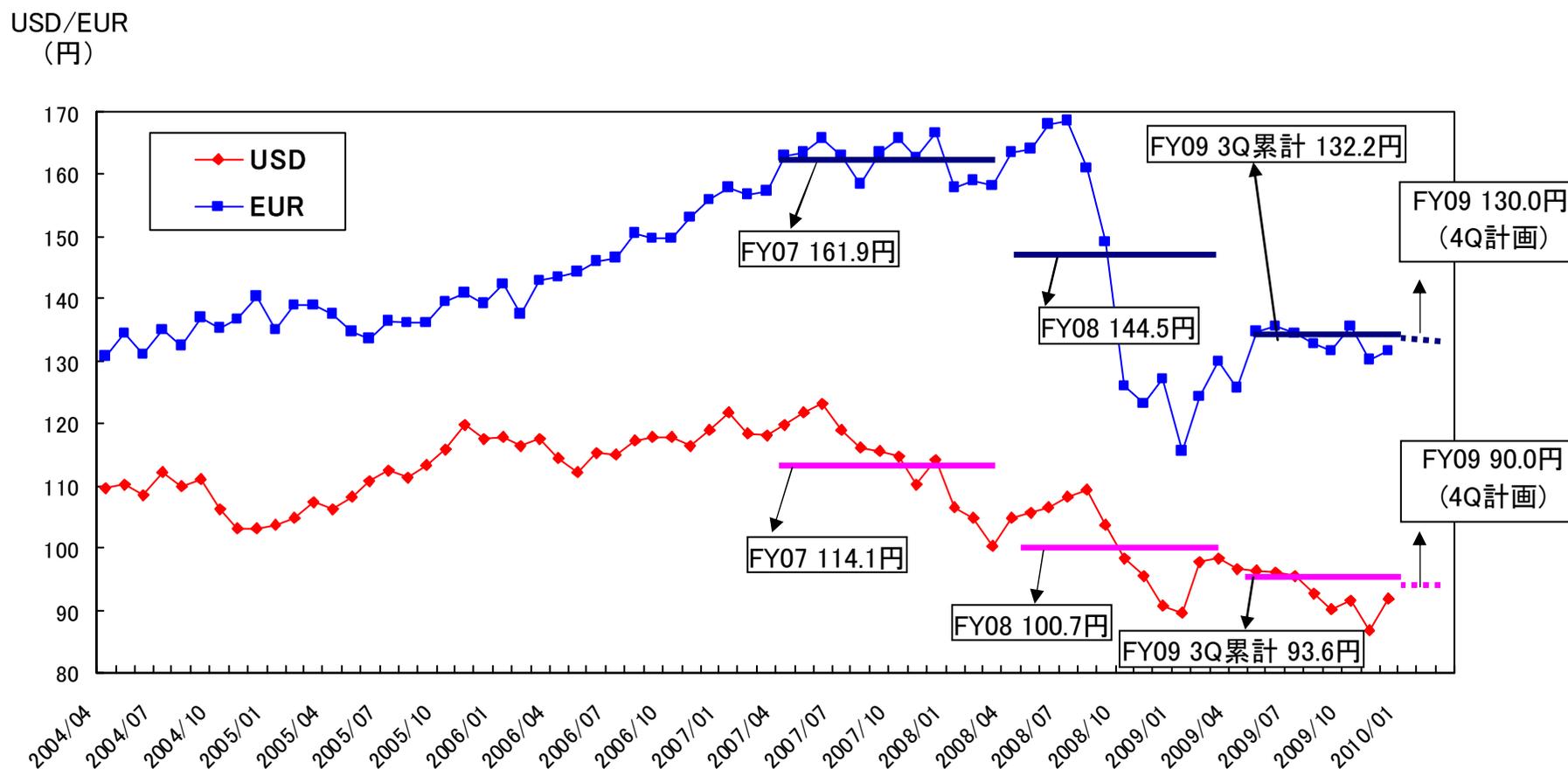


* 出所：中国国家统计局、各年の1・2月データは調整

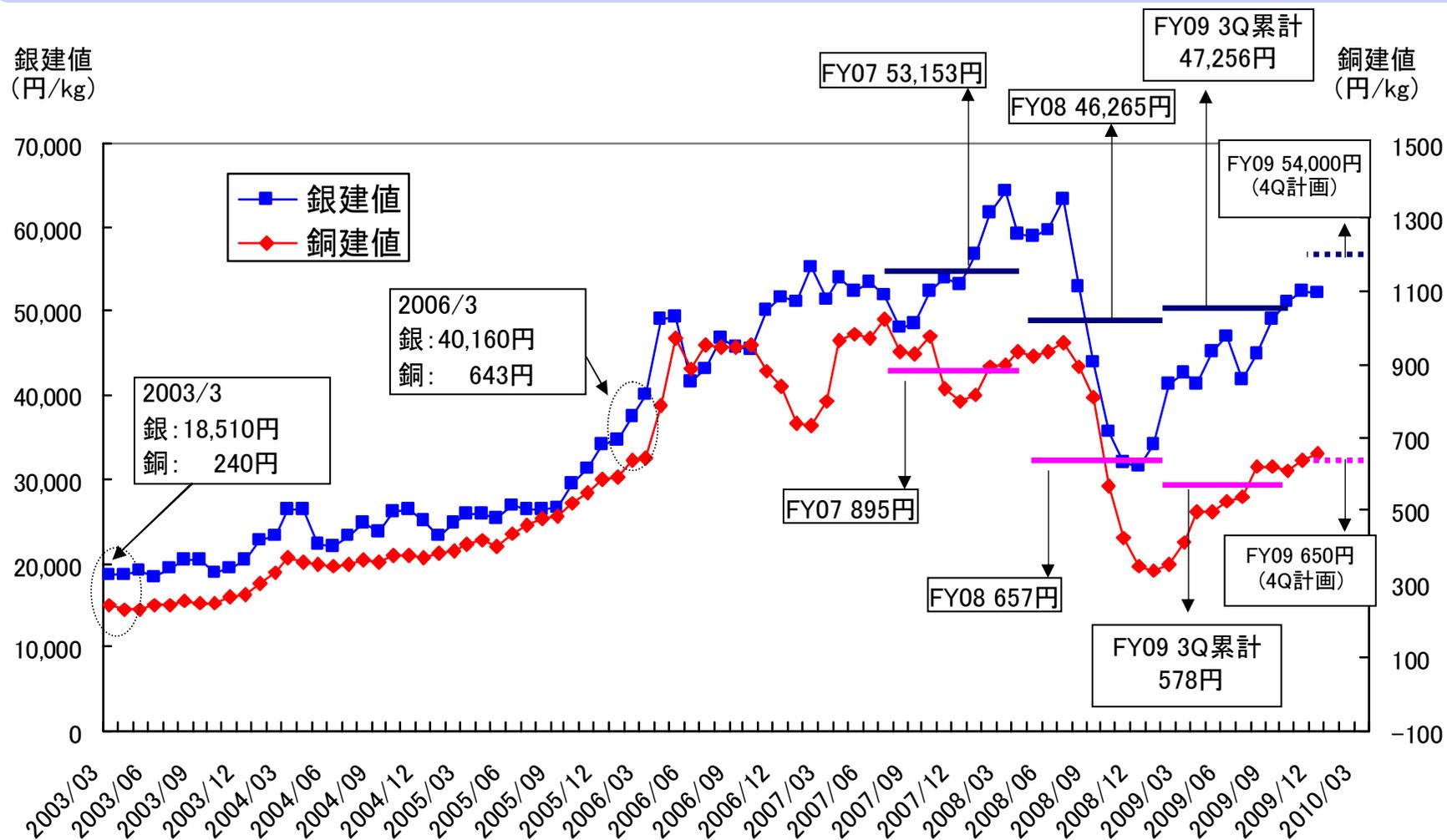
エグゼクティブ・サマリー	P.4
第3四半期決算報告	P.5
通期業績見通し	P.28
緊急対策及び構造改革の状況	P.37
中国の状況(マクロ環境とIAB)	P.42
ご参考資料	P.45

為替レートの推移(ドル、ユーロ)

➤ドル・ユーロとも2009年度、第3四半期累計期間は期初計画よりも円安



➤ 銀・銅とも2009年度第3四半期累計期間の建値は前年度比下落するが、上昇傾向



緊急対策・構造改革

緊急対策

(2009年度、コスト削減による利益の創出)

利益の創出

- (1) 経費削減
広告宣伝費、研究開発費、間接経費など
- (2) 不採算事業・低採算事業の収束
ECB、AECの国内外4事業
- (3) その他固定費削減
役員報酬・管理職給与の一部返上、
超過勤務時間のゼロ運用など

キャッシュフローの創出

大型投資の凍結、通常投資削減

構造改革

(中期的な収益基盤の強化)

1. 事業ドメイン改革

制御3事業(IAB、ECB、AEC)の再構築

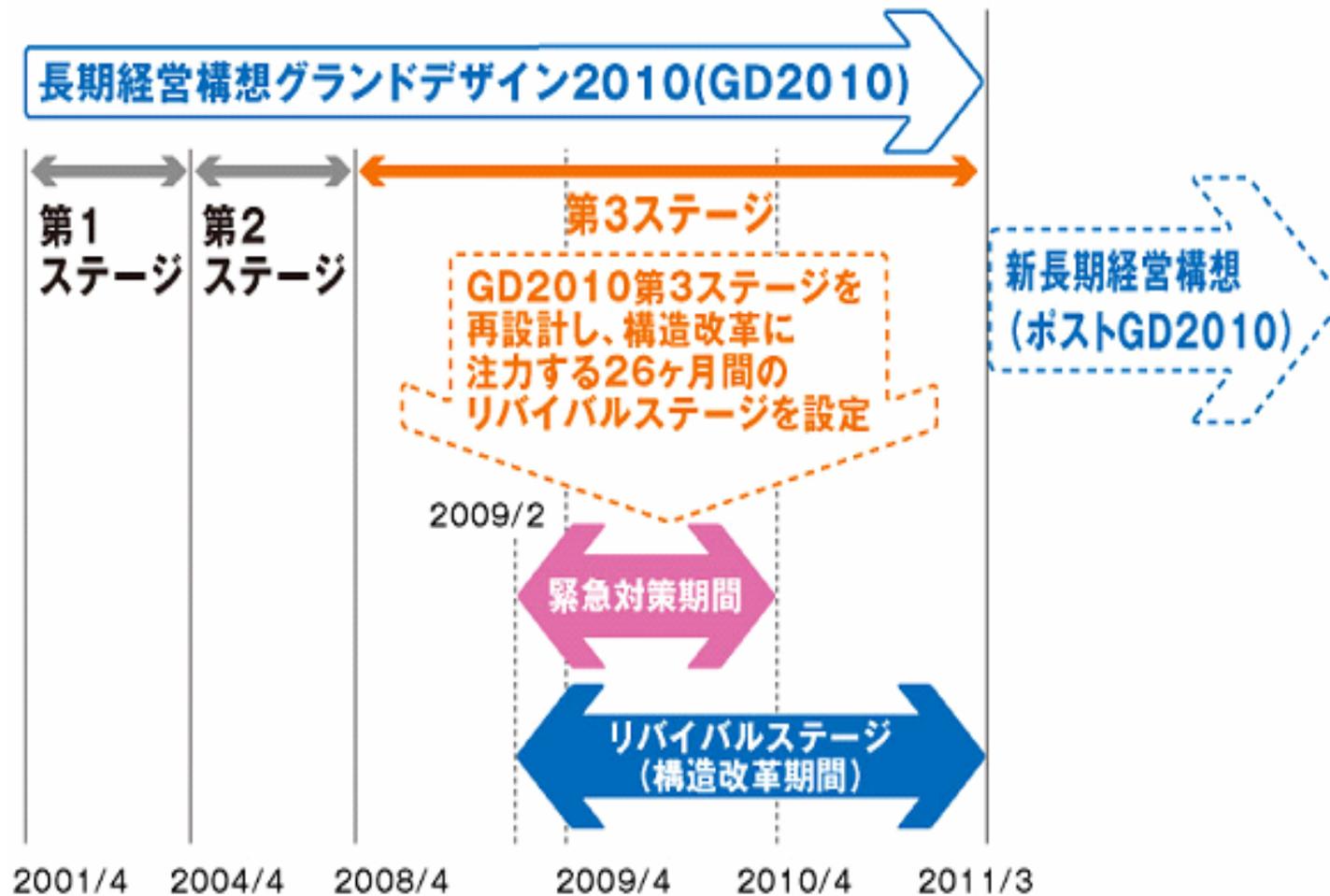
- ・IAB: 事業のフロント・収益基盤の強化
- ・ECB: メカニカルコンポ事業の再強化
- ・AEC: 徹底した収益改善

2. 運営構造改革

- (1) 生産拠点の統廃合
- (2) 変動費構造改革
- (3) IT構造改革
- (4) 本社機能改革

緊急対策及び構造改革の実行スケジュール

➤ 2009年2月～2011年3月をリバイバルステージと位置づけ、緊急対策と構造改革を実行中



- 自動車用電子部品事業(AEC)の会社分割の詳細を決定
- 新会社設立は、2010年5月6日を予定

	新設会社 (2010年5月6日予定)
(1)商号	オムロンオートモーティブエレクトロニクス株式会社
(2)事業内容	自動車向け電装部品の製造販売
(3)設立年月日	2010年5月6日予定
(4)本店所在地	愛知県小牧市
(5)代表者の役職・氏名	代表取締役社長 鈴木 吉宣
(6)資本金	5,000百万円
(7)発行済株式数	100,000株
(8)純資産	19,600百万円(個別)
(9)総資産	23,000百万円(個別)
(10)決算期	3月31日
(11)大株主および持株比率	オムロン株式会社 100%

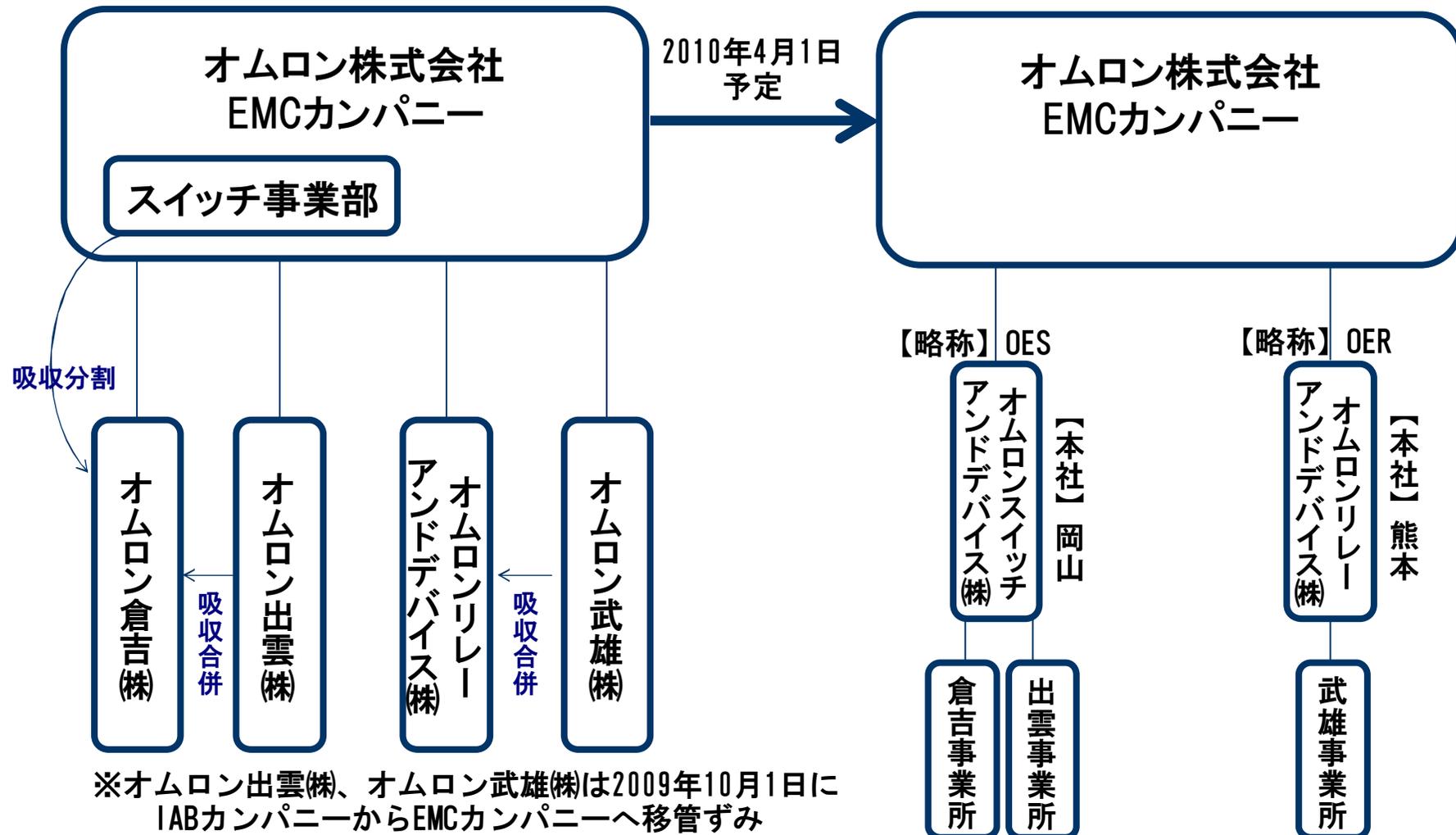
スイッチ事業会社の詳細決定

- EMCカンパニーにおけるスイッチ事業会社の詳細を決定
- 2010年4月1日にオムロン倉吉株式会社へスイッチ事業を吸収分割し、商号と本店所在地を変更予定

	スイッチ事業会社(オムロン倉吉から商号変更) (2010年4月1日、商号変更予定)
(1)商号	オムロンスイッチアンドデバイス株式会社
(2)事業内容	業務民生機用マイクロスイッチ、車載スイッチなど電子部品の製造販売
(3)設立年月日	1969年4月24日
(4)本店所在地	岡山市
(5)代表者の役職・氏名	代表取締役社長 谷口 宣弘
(6)資本金	300百万円
(7)発行済株式数	600,000株
(8)純資産	6,027百万円(2009年3月期実績)
(9)総資産	9,447百万円(2009年3月期実績)
(10)売上高	12,152百万円(2009年3月期実績)
(11)決算期	3月31日
(12)大株主および持株比率	オムロン株式会社 100%

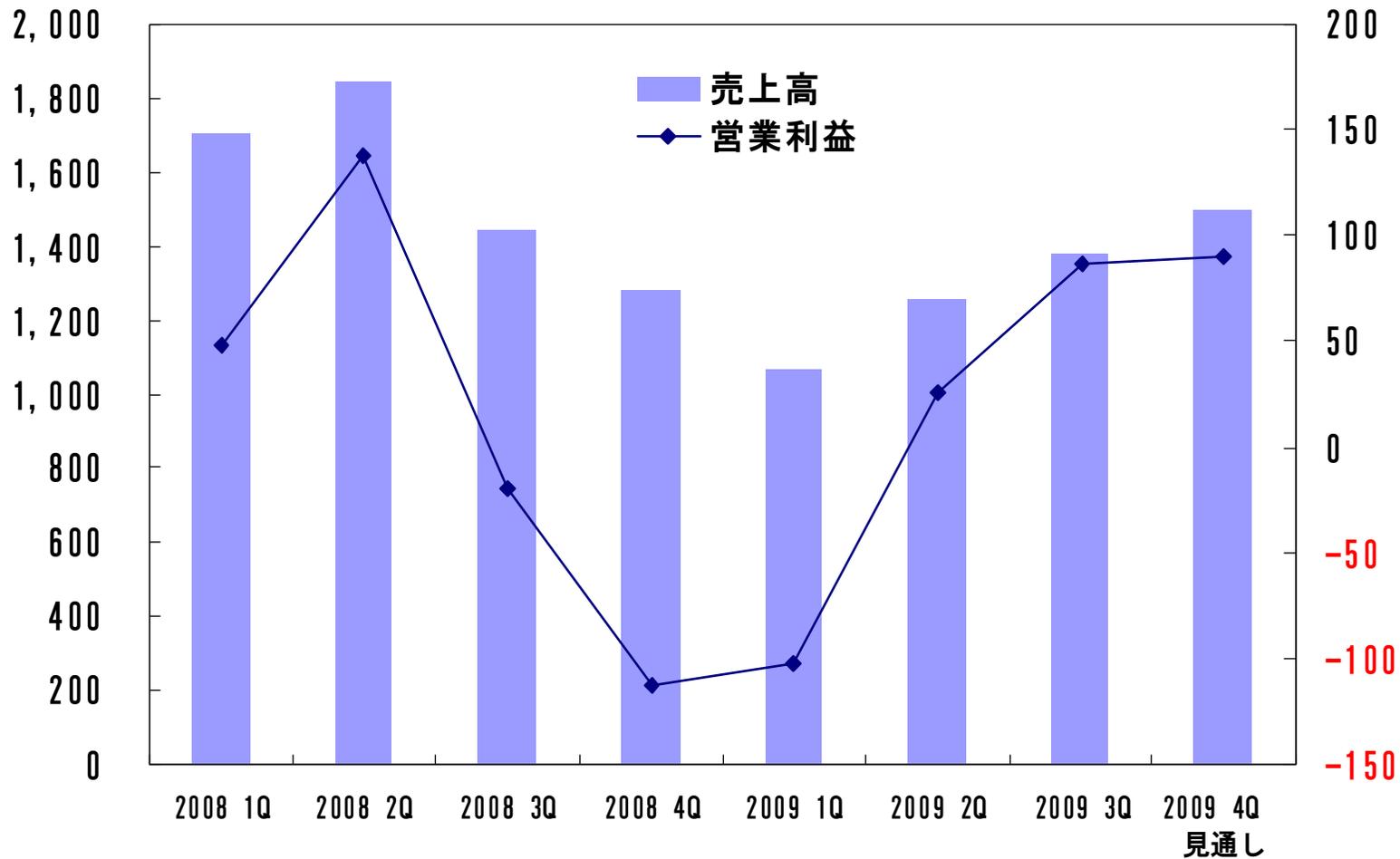
スイッチ・リレー事業の再編

➤ スイッチ事業会社設立及びリレー事業の経営統合を実施

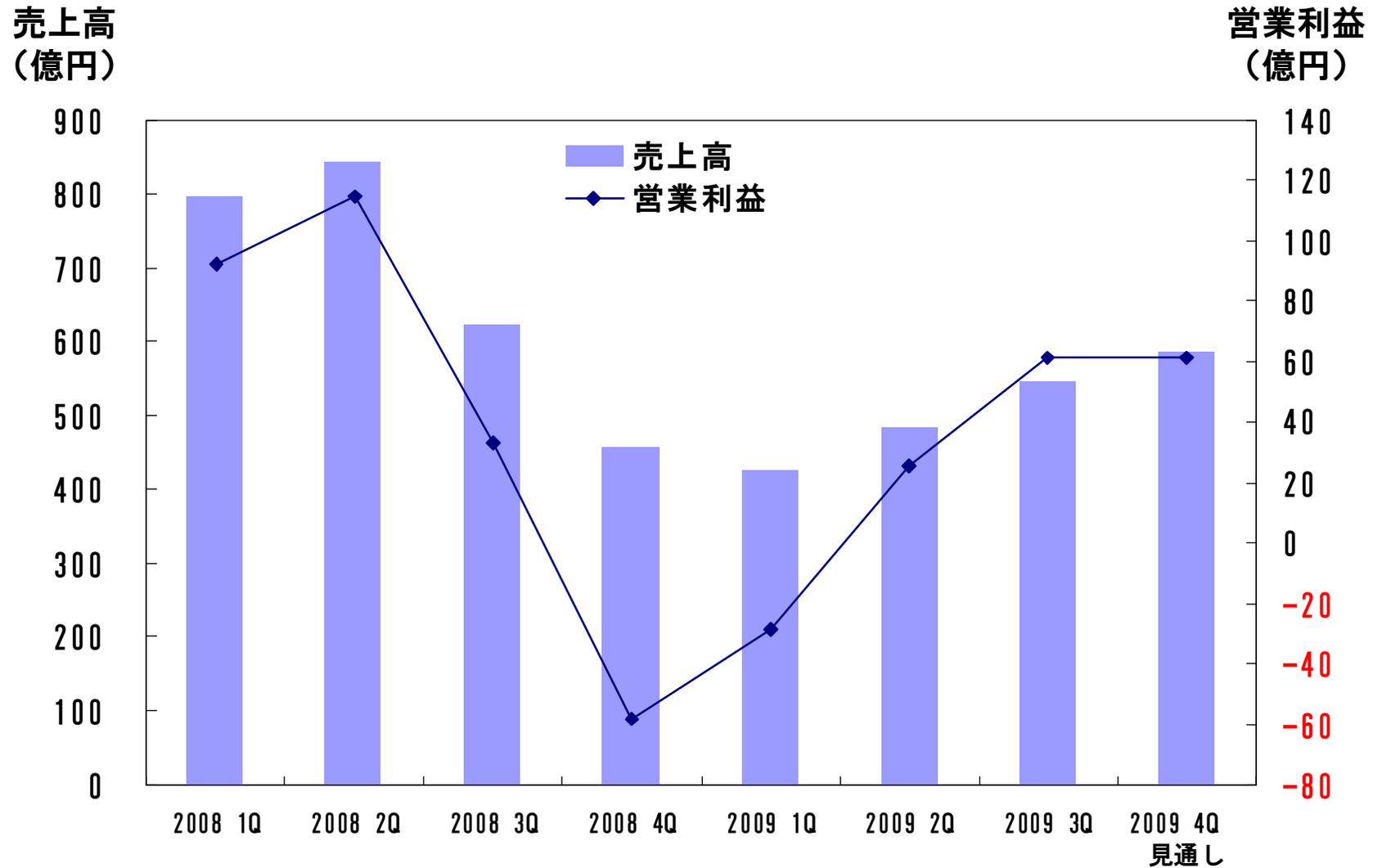


売上高
(億円)

営業利益
(億円)



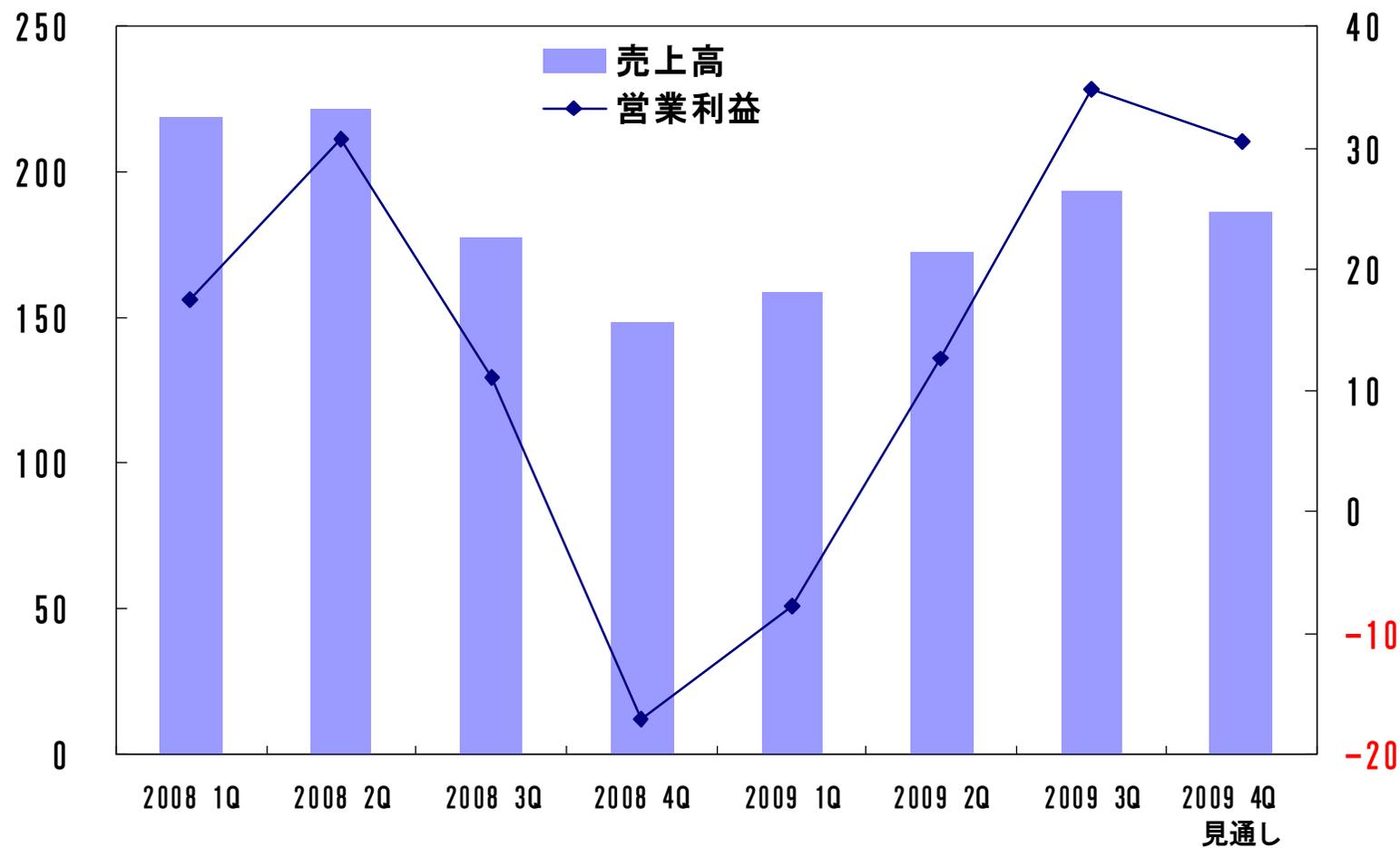
工場自動化用制御機器事業(IAB) / 売上高・営業利益推移



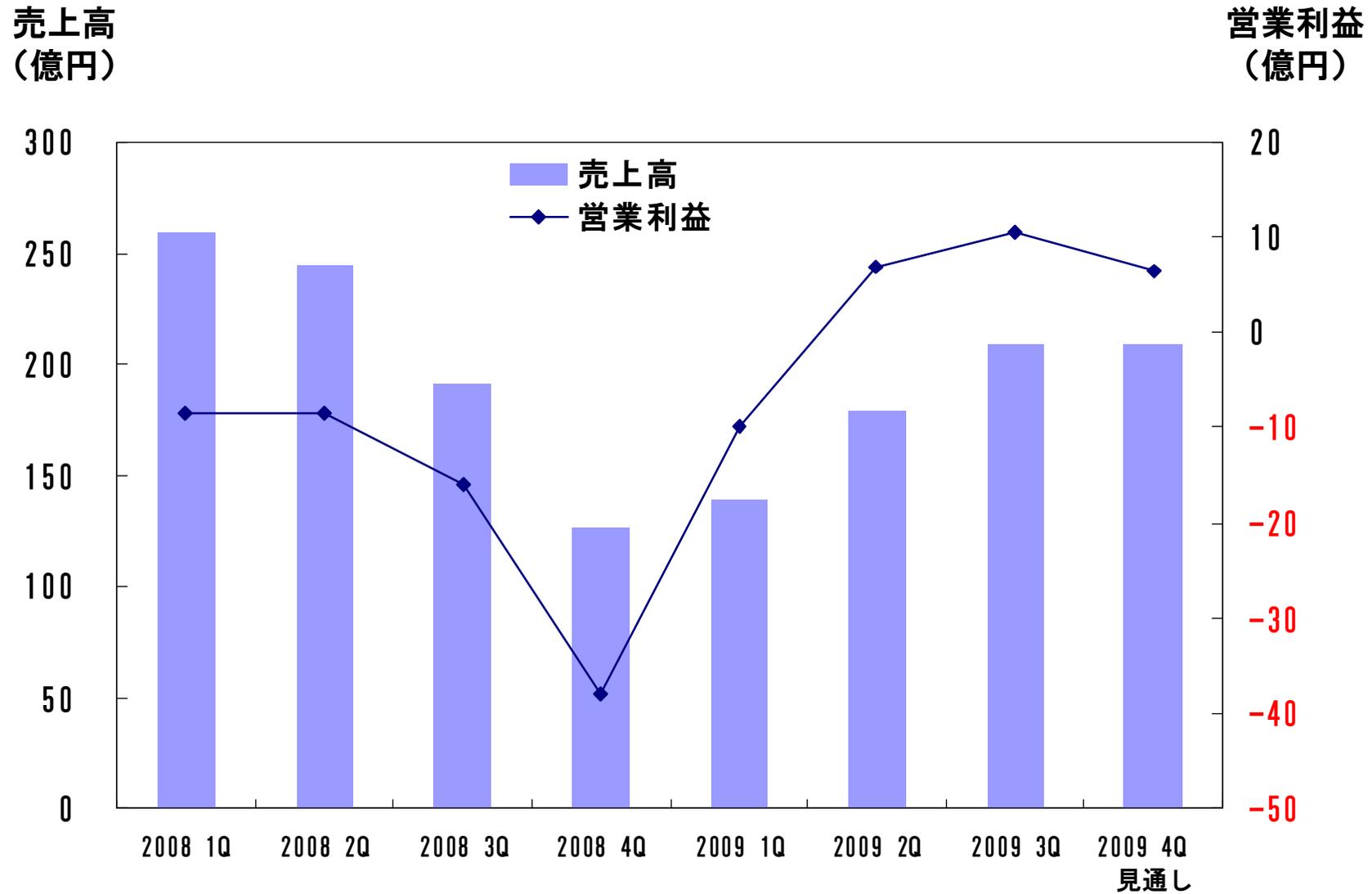
家電・通信用電子部品事業(EMC) / 売上高・営業利益推移

売上高
(億円)

営業利益
(億円)



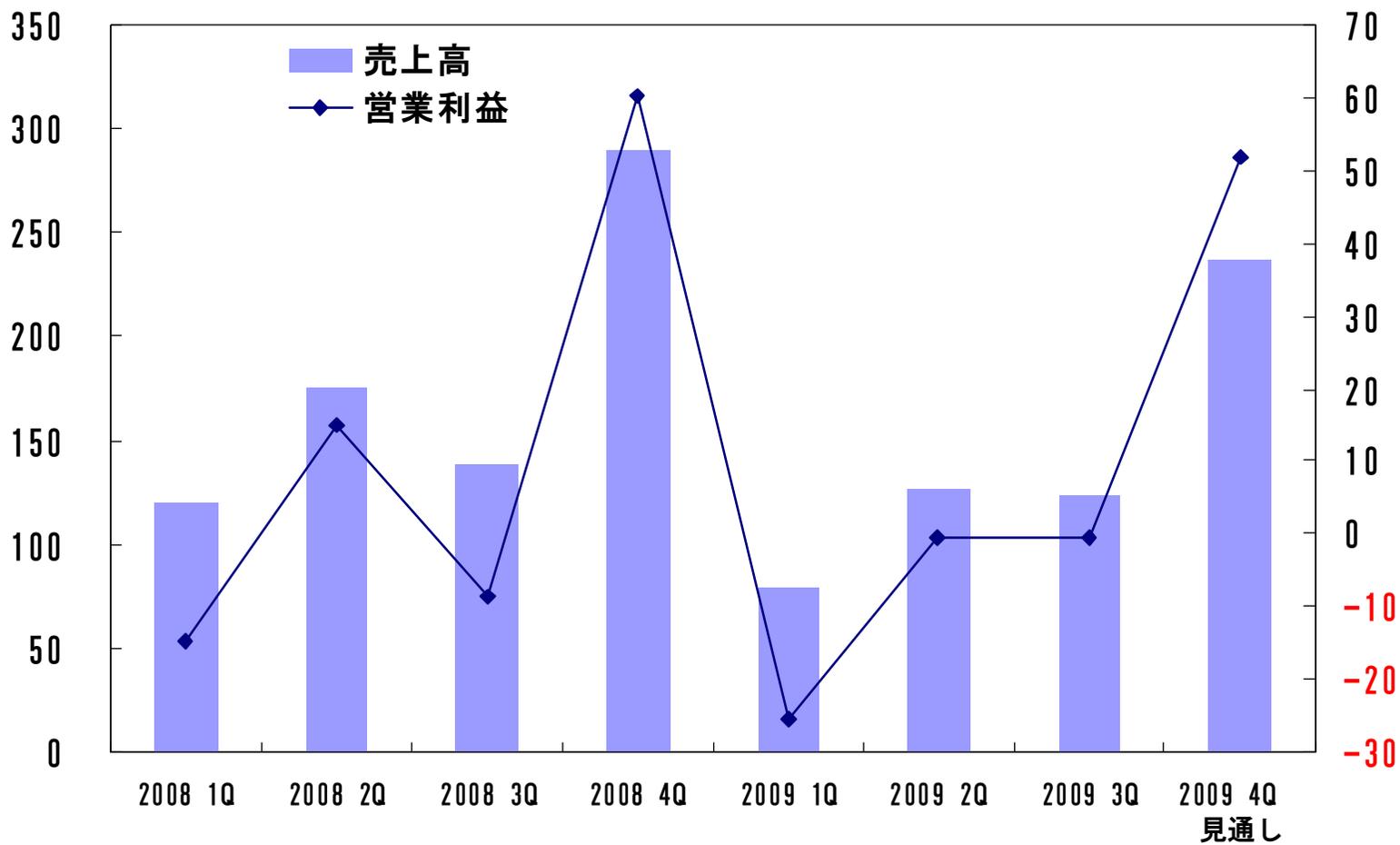
自動車用電子部品事業(AEC) / 売上高・営業利益推移



社会システム事業(SSB) / 売上高・営業利益推移

売上高
(億円)

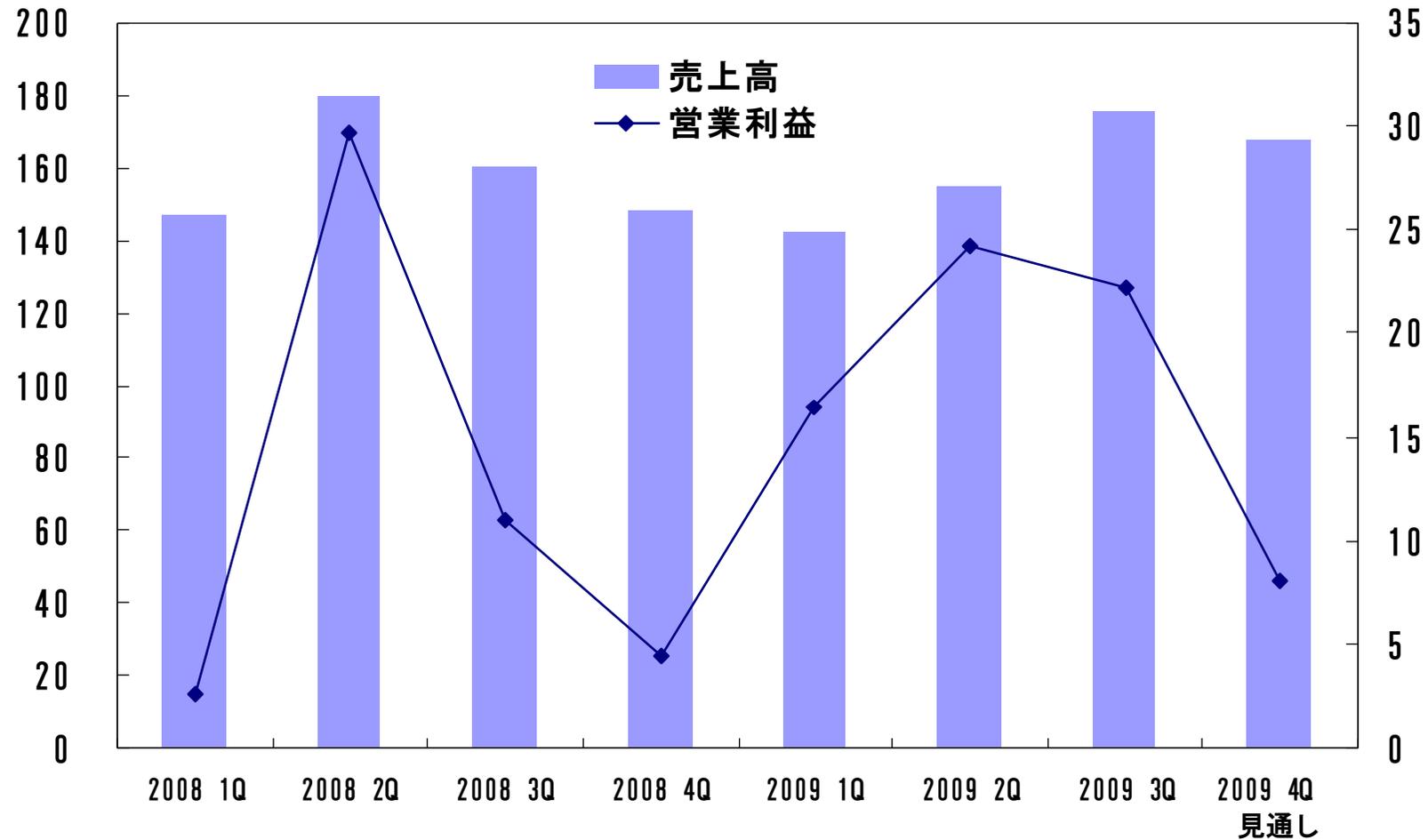
営業利益
(億円)



健康・医療機器事業(HCB) / 売上高・営業利益推移

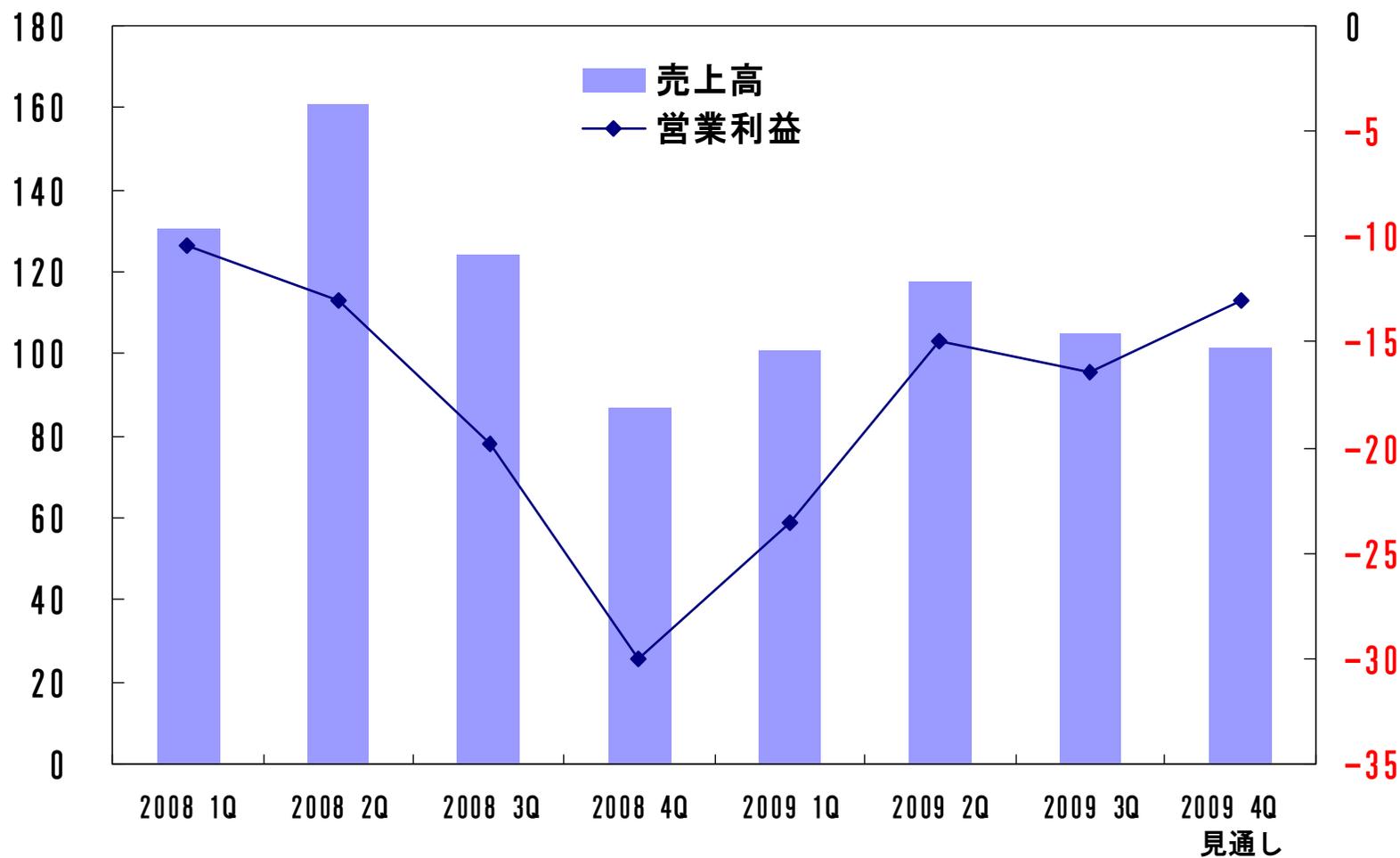
売上高
(億円)

営業利益
(億円)



売上高
(億円)

営業利益
(億円)



センシング&コントロール技術で 「安心をカタチに」



＜お問い合わせ＞

オムロン株式会社

IR企業情報室 経営IR部

電話 : 03-3436-7170

E-mail : omron_ir@omron.co.jp

HPアドレス : www.omron.co.jp